

報告第6号

宍粟メイプル株式会社令和6年度決算書及び令和7年度事業計画書等の提出について

地方自治法（昭和22年法律第67号）第243条の3第2項及び地方自治法施行令（昭和22年政令第16号）第173条の5第1項の規定により、宍粟メイプル株式会社の令和6年度決算書及び令和7年度事業計画書等を提出する。

令和7年8月29日提出

宍粟市長 福元晶三

〔報告事項〕

第33期(令和6年度)事業報告書

事業報告 自:2024年4月1日 至:2025年3月31日

《総括》

令和6年度事業を開始するにあたり、“7期ぶりに経常利益を計上することができた前期ではあるが、コロナ禍の鎮静化により地域交流の活性が平常に戻ってきている好条件にあるもののまだまだ完全復活とはなっておらず、加えて不透明な経済情勢とあらゆる面で多様性の時代の中で刻々と地域を取り巻く環境が変化していることを従業員一同がしっかり認識し、第三セクターであるわが社の存在意義と経営理念に基づき、地域の方に愛される、利用していただける「道の駅はが、道の駅みなみ波賀、東山フォレストステーション」を創造し、「復活戦略ストーリー」で示す計画2年目の目標である「体力増強期」を目指して”取り組んできました。

取組の核としたのがお客様あつての事業であるという商売の原点をしっかり理解し、お客様目線100%の接客により心から喜んでいただける場所になること、週末は市外からのお客様が多数を占めるという弊社の特性を活かした効果的なイベントを毎月開催することで、集客増の取り組みを強化いたしました。結果、会社全体の売上総額は、目標の4億6,300万円には届きませんでした。道の駅みなみ波賀売店部門の売上が堅調であったことなどにより4億3,766万円を計上し、変動費の抑制や効率的な人員配置などによる経営改善が大きく進展したことにより経常利益では770万円を確保することとなり、2期連続して黒字化を達成することができました。

また、接客・情報共有・モチベーション対策による職員力アップや組織力強化を目的とした総合シフト制の試験導入による人事勤務体制の見直しに取り組み、さらに在庫管理、FL比率改善や閑散期対策の取組みを柱とした経営力の強化を図ることに尽力いたしました。結果、目標とした体力増強については十分ではありませんが一定達成することができたものと判断しております。

さて、地域の経営環境に目を向けますと、人口減少がもたらす様々な課題が深刻化する中、人材不足や人件費、資機材費や光熱水費が高騰し大きな経営負担となっていますが、その課題解決にはやはり交流人口や関係人口を増やすことが一番肝要であり、あらゆる角度からチャレンジする、アクションを起こすことが地域活力をとり戻す最善かつ唯一の方法を考えており、次期年度は3年間の取組指針である「復活戦略ストーリー」の最終年度となり、取組目標を「挑戦期」と位置付けて果敢に取り組んでまいります。

以下、6年度事業の詳細を報告いたします。

1. 基本理念

「宍粟市の限りない発展を願い、中山間地の特性を活かした商品開発及び観光振興を図り、社員と地域住民の幸せを目指す」

2. 第33期シーズン キャッチコピー

- ①「お客様目線 100%! #平日、地域のオアシス #休日、鄙(ひな)のオアシス を目指して」
- ②「お客様に心から喜んでいただく! 食して、浴して、泊って、そしてコト体験とお買い物で笑顔満開」

3. 経営状況

1) 経営分析 <<33期経営概要分析>>

収入面では、みなみ波賀レストラン部門のセルフスタイルが定着化したことや効果的なイベント開催により集客が伸び、売店部門の活況が進展し道の駅全体への好影響となりました。また、加工部門では、波賀味噌や揚げかきもちといった弊社主力商品が売れ筋となり、問屋等への卸売商品の伸びなどが要因し売り上げを押し上げ、グループ全体で前年度より2%程度の売上増となっています。特に波賀味噌は前期1.9tの製造量に対し3割増の2.5tの製造実績となっています。

一方支出面では、人件費、光熱水費や資機材費の高騰で物価が上昇しており仕入価格への影響は決して小さくはなく、特に加工部門での経費増が著しく収支バランスが悪化する要因となりました。

また、昨期と比較するとコロナ融資資金の本格的な返済が始まっていることや5年度経常利益に対する市への指定納付金の増額、最低賃金引き上げに伴う給与措置、8月期と12月期の賞与支給などの負担増加要因はあるものの、継続したFL値管理による経費縮減や総合シフト制による人件費抑制などに取り組んだことにより、支出総額の縮減を図っております。

結果経常利益は、対前期29%増の7,707千円となり、前期に続き黒字決算となりました。

2) 資金残高の推移

経営の基盤となる預金残高については、3月末預金残高が58,000千円余りとなっており、昨年同期とほぼ同水準を維持しており、前述のとおり指定納付金の増額やコロナ融資資金返済、賞与支給などで前期と比較すると11,000千円程度の資金負担が増加していることを加味すると、経営は堅調でバランスの取れた資金管理が維持されていると判断しています。ただし、総量的には目標としている1億1千万円には大きな乖離がありますので、不測の事態が長期間続くような場合に余裕をもって対応できるとはまだまだ言えないため、売上増と経営改善を並行して推進することで底上げを図らなければならないと考えています。

3) グループ・部門別売上、経常利益

◆上半期 部門別実績集計 (R6.4 ~ R6.9)

単位:千円

部門 区分	道の駅はが	道の駅みなみ波賀		産品加工所	フォレスト ステーション	グループ合計
	売店・食堂	売店・パン	レストラン			
期間売上目標	15,300	90,000	17,000	16,300	108,300	246,900
期間経常利益目標	940	2,100	900	△1,920	16,700	18,720
期間売上実績	12,217	95,587	19,240	17,061	98,468	242,573
期間経常利益実績	△150	9,623	1,155	△5,050	13,196	18,774

◆下半期 部門別実績集計 (R6.10月 ~ R7.3月)

部門 区分	道の駅はが	道の駅みなみ波賀		産品加工所	フォレスト ステーション	グループ合計
	売店・食堂	売店・パン	レストラン			
期間売上目標	10,200	83,200	14,800	26,800	81,100	216,100
期間経常利益目標	60	400	△500	2,520	800	3,280
期間売上実績	8,442	66,938	15,818	26,554	77,335	195,087
期間経常利益実績	△1,138	△2,371	△545	1,633	△8,646	△11,067

◆今期決算額

部門 区分	道の駅はが	道の駅みなみ波賀		産品加工所	フォレスト ステーション	グループ合計
	売店・食堂	売店・パン	レストラン			
今期売上目標	25,500	173,200	31,800	43,100	189,400	463,000
今期経常利益目標	1,000	2,500	400	600	17,500	22,000
今期売上実績	20,659	162,525	35,058	43,615	175,803	437,660
今期経常利益実績	△1,288	7,252	610	△3,417	4,550	7,707

4) 今期の重点取り組み概要

①組織力強化

1) 職員力UP #職員の成長が垣間見られ、徐々に成果が現れてきています!

①お客様接客3カ条を制定

・笑顔の対応、お声がけ、マイナス言葉の厳禁を共有しています

②所属長会議、部門ミーティングの改善取り組み → 定期開催、短時間開催、会議録作成の徹底

・情報戦略会議を設置し、プロジェクトメンバーにより部門間で情報共有し取り組んでいます。

③モチベーション向上 #人材不足など不安材料もあるが、士気は上々

・賞与支給：基本給の0.9月(全職員54名対象 8月、12月支給 1人平均 129千円)

・研修旅行の実施：岡山方面へ日帰り旅行(R7年2月実施)

④職員面談：管理監督職(主任以上)職員11名 1月下旬~2月初旬に実施

2) 人事体制等

①新たな人員確保：フォレスト(フロント、ホール)、加工所(製造)部門、パン工房

・苦戦しているが、職員異動、総合シフト制で乗り切る

・新卒採用対策 2/4ジャンプアップしそ参加 → 8年度新卒採用を検討

②人材育成：幹部職員の高齢化を見据え、次世代育成の視点に立った対策 #苦戦中

③重要コンテンツへの関わり強化：E-バイク事業強化・森林鉄道事業への参画、直営農場事業の調査研究

④定期給与改定(4月実施)、係長・主任手当の創設(令和7年4月より適用)

若年層の給与引き上げ、時間給職員の単価引き上げ実施(令和6年4月実施)

②経営力の強化

①在庫管理の徹底(継続)：「在庫管理が会社経理の命運を握っている」特に決算期の在庫管理は厳格に実施する。

②イベントの定期開催、企画満載による集客力向上 → 流行と地域ニーズを把握したイベントを醸成

③FL比率改善の取り組み 特に管理職は経営意識を念頭に、率先して改善に取り組んでいる。

④きめ細かなシフト管理、営業時間・週休日の変則運用：特に1月~3月の閑散期の対策を強化している。

⑤適正な資金管理と確実な返済計画の履行：収支予測集計表を活用し適正な資金管理、コロナ融資資金返済(2口)、遅滞なし

4. 成果と課題

【成果】

- ①施設や従業員の雰囲気明るくなってきており、部門間の声掛けも進んでいます。
- ②各部門でのミーティングの定期開催、質の高い会議へ成長の兆し、情報戦略に特化した専門会議を設置しています。
- ③スキルアップと危機管理体制強化、生産性向上を目的とした部門間での総合シフト制が動き始めています。
- ④入込数が堅調に推移しています。キャンプ場の入込大幅減があるものの、24年度の3施設レジカウント数203千人を堅持
- ⑤機能的な整理整頓が見え始め、在庫管理の徹底や光熱水費高騰対策による経費節減が維持されています。
- ⑥FL比率が改善していること：飲食部門で71.7%（75.7%）、販売部門で81.9%（85.3% ※（ ）は、昨年度
- ⑦職員に経営を意識した仕事が見え始め、営業収益が改善し2期連続の黒字となりました。

【課題、強化の視点】

- ①地域食材、発酵食品の開発と活用：特に米の短期対応と中期的な取組を計画し、味噌と新産品開発に関連する事業を強化
- ②重点強化：誘客の主軸となるE-バイク、森林鉄道への関わりを強化し、関連する施設運営と連携した戦略を計画的に推進
- ③フォレスト事業強化：新たなキャンプ場経営の視点、富裕層やライフスタイルを活かした芝生広場活用の視点、こと体験を組み込む視点
- ④道の駅機能強化：施設の新たな多面的な活用、防災機能強化、周辺環境整備の視点で新たな施設整備、事業構想を推進
- ⑤人材育成：会社存続と成長するための組織体制強化、若年層スタッフ確保に留意し、時代にマッチした人材育成、人事評価制度の研究

5. 「道の駅はが」の在り方

平成5年7月に近畿第1号として設置された「道の駅はが」は、鳥取、姫路への主要アクセス道として、旅行客やリンゴ園、原不動滝、波賀温泉楓香荘などへの観光客、さらに夏のレジャーや学生のメッカとしての音水湖カヌー、ウィンタースポーツの代名詞である戸倉スキー場への来場者をターゲットに営業を続けてきました。

近年、類似施設との競合やスキー人口減少に加え雪不足による営業日数の減少、楓香荘営業終了による集客減、さらに姫路-鳥取道の全線開通など、様々な環境変化により国道29号の交通量減少に歯止めがかからず経営的には厳しい状態が続いており、施設の累積赤字が年々膨らみ会社全体の経営にとっても決して小さくないダメージとなっています。

つきましては、これから「道の駅はが」事業で取り組むべき課題や施設の在り様・方向性を議論するため、「道の駅はがの在り方検討」を取りまとめしております。

第 3 3 期

決 算 報 告 書

令和 6 年 4 月 1 日 から

令和 7 年 3 月 3 1 日 まで

宍 粟 メ イ プ ル 株 式 会 社

(法人番号:8140001039124)

貸借対照表

商号 実栗メイプル 株式会社

代表者 富田 健次

令和 7年 3月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資 産 の 部)		(負 債 の 部)	
I 流 動 資 産	(92,994,618)	I 流 動 負 債	(26,469,539)
現 金 及 び 預 金	60,368,000	買 掛 金	9,044,955
売 掛 金	5,739,480	雑 給 付 金	3,533,424
レ ジ ッ ト 売 掛 金	2,650,111	未 払 保 険 料	4,906,512
電 子 ・ Q R 売 掛 金	1,247,798	未 払 法 人 税	185,000
電 子 卸 資 産	21,272,297	未 払 消 費 税	4,462,200
未 収 入	1,420,625	預 り 受 取 金	1,151,208
未 立 仮 貸 倒 引 当	33,660	賞 与 引 当 金	670,240
	328,995		2,516,000
	△ 66,348		
II 固 定 資 産	(14,854,617)	II 固 定 負 債	(66,057,000)
有 形 固 定 資 産	(13,459,231)	長 期 借 入 金	66,057,000
建 築 物	8,639,619		
機 械 及 び 装 置	160,054		
車 両 運 搬 具	2,906,619		
工 具 、 器 具 及 び 備 品	7		
	1,752,932		
無 形 固 定 資 産	(1,044,681)		
ソ フ ト ウ ェ ア	603,729		
電 話 加 入 権	440,952		
投 資 そ の 他 の 資 産	(350,705)		
出 長 期 前 払 費 用	113,000		
	237,705		
		負 債 の 部 合 計	92,526,539
		(純 資 産 の 部)	
		I 株 主 資 本	(15,719,919)
		1. 資 本	60,000,000
		2. 資 本 剰 余 金	(9,637,500)
		(1) 資 本 準 備 金	9,637,500
		3. 利 益 剰 余 金	(△ 53,917,581)
		(1) 利 益 準 備 金	245,959
		(2) そ の 他 利 益 剰 余 金	(-54,163,540)
		繰 越 利 益 剰 余 金	△ 54,163,540
		II 評 価 ・ 換 算 差 額 等	(0)
III 繰 延 資 産	(397,223)	III 新 株 予 約 権	(0)
繰 開 業 費	397,223		
		純 資 産 の 部 合 計	15,719,919
資 産 の 部 合 計	108,246,458	負 債 ・ 純 資 産 の 部 合 計	108,246,458



R72414

損益計算書

令和 6年 4月 1日から
令和 7年 3月31日まで

商号 栄栗メイプル 株式会社

(単位：円)

科 目	金 額		
I 売 上 高 売 助 金 委 託 補 販 売 手 数 料	421,307,462 14,076,372 2,276,600	437,660,434	437,660,434
II 売 上 原 価 期 仕 首 棚 卸 コ 一 シ 管 理 受 当 期 製 品 製 造 原 合 他 勘 定 振 替 期 末 上 棚 卸 利 売 上 総 利	154,834,134 13,231,979	15,946,158 168,066,113 55,285,079 239,297,350 60,049 15,064,694	224,172,607 213,487,827
III 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費 販 売 費 業 務 利 益		207,828,036	207,828,036 5,659,791
IV 営 業 外 収 益 受 貸 受 雑 倒 取 引 取 当 配 収 金 戻 当		8,940 7,955 4,000 3,437,649	3,458,544
V 営 業 外 費 用 支 貸 繰 延 倒 産 債 償 却		771,676 2,546 636,373	1,410,595
経 常 利 益			7,707,740
VI 特 別 利 益		0	0
VII 特 別 損 失 固 定 資 産 除 却 損 在 庫 損 益 修 正		14,184 546,899 177,273	738,356
税 引 前 当 期 純 利 益 法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税 当 期 純 利 益		185,000	6,969,384 185,000 6,784,384

販売費及び一般管理費の計算内訳

令和 6年 4月 1日から
令和 7年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	金 額
給 与 手 当	72,239,761
雑 給	10,346,212
旅 費 交 通 費	94,380
広 告 宣 伝 費	2,755,199
被 服 費	301,678
支 払 手 数 料	7,878,945
手 数 料 (クレジッ ト)	2,220,340
役 員 報 酬	5,400,000
賞 与 引 当 金 繰 入	2,516,000
賞 与 費	5,566,056
法 定 福 利 生 費	11,459,030
福 利 厚 給 費	2,515,016
減 価 償 却 費	2,248,849
地 代 一 家 賃 料	7,827,550
修 繕 費	614,915
研 修 信 修 費	2,648,857
通 道 光 熱 費	251,564
水 租 税 公 課	3,451,211
寄 付 交 際 費	38,001,673
接 待 交 際 費	1,141,246
保 険 料	68,025
備 品 消 耗 品 費	38,966
車 両 経 費	962,770
保 守 メン テ ナ ン ス 費	6,834,640
燃 料 委 託 費	912,102
業 者 委 託 費	4,435,760
雑 費	2,039,111
	8,988,705
	4,069,475
合 計	207,828,036

棚卸資産の計算内訳

令和 7年 3月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額
商 品	15,064,694
原 材 料	4,834,027
仕 掛 品 (半 成 品)	1,373,576
合 計	21,272,297



製 造 原 価 報 告 書

令和 6年 4月 1日から
令和 7年 3月31日まで

(単位：円)

科 目				金 額
I	材	料	費	
期	首	材	料	7,404,215
材	料	仕	入	24,739,710
合	期	末	材	32,143,925
期	当	期	材	4,834,027
			料	27,309,898
			費	
II	労	務	費	
賃			金	17,401,647
賞			与	1,003,457
雑			給	1,280,985
法	定	福	利	1,847,099
当	期	労	務	21,533,188
			費	
III	経		費	
被		服	費	9,854
外	注	加	工	1,538,319
電		力	費	263,102
水	道	光	費	1,053,060
減	価	熱	費	1,124,729
修	繕	却	費	88,000
消	耗	品	費	1,549,040
通	信		費	482,803
燃	料		費	847,400
当	期	経	費	6,956,307
当	期	総	製	55,799,393
期	首	仕	掛	1,226,112
合	期	末	仕	57,025,505
他	勘	定	振	1,373,576
当	期	製	品	366,850
		製	造	55,285,079
		製	造	
		原	価	

株主資本等変動計算書

令和 6年 4月 1日から

令和 7年 3月31日まで

(単位：円)

I	株主資本	資本金		
1.	資本金	当期首残高		60,000,000
		当期変動額		0
		当期末残高		<u>60,000,000</u>
2.	資本剰余金	準備金		
(1)	資本剰余金	当期首残高		9,637,500
		当期変動額		0
		当期末残高		<u>9,637,500</u>
3.	利益剰余金	準備金		
(1)	利益剰余金	当期首残高		245,959
		当期変動額		0
		当期末残高		<u>245,959</u>
(2)	その他利益剰余金	繰上利益剰余金		
		当期首残高		-60,947,924
		当期変動額		
		当期純利益	6,784,384	6,784,384
		当期末残高		<u>-54,163,540</u>
	その他利益剰余金合計	当期首残高		-60,947,924
		当期変動額		
		当期純利益	6,784,384	6,784,384
		当期末残高		<u>-54,163,540</u>
	株主資本合計	当期首残高		8,935,535
		当期変動額		
		当期純利益	6,784,384	6,784,384
		当期末残高		<u>15,719,919</u>
II	評価・換算差額等	当期首残高		0
		当期変動額		0
		当期末残高		<u>0</u>
III	新株予約権	当期首残高		0
		当期変動額		0
		当期末残高		<u>0</u>
	純資産の部合計	当期首残高		8,935,535
		当期変動額		
		当期純利益	6,784,384	6,784,384
		当期末残高		<u>15,719,919</u>



個別注記表

令和 6年 4月 1日から

令和 7年 3月31日まで

I. この計算書類は、「中小企業の会計に関する基本要領」によって作成しています。

II. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 固定資産の減価償却方法

(1)有形固定資産

定率法又は旧定率法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物（附属設備を除く）については旧定額法、平成19年4月1日以後に取得した建物（附属設備を除く）については定額法、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。

(2)無形固定資産

定額法又は旧定額法を採用しております。

(3)長期前払費用

期間均等償却を採用しております。

2. 引当金の計上基準

(1)貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、法人税法に規定する法定繰入率により計算した回収不能見込額を計上しております。

(2)賞与引当金

従業員賞与の支給に備えるため、将来の支給見込額のうち当期負担額を計上しております。

3. 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式を採用しております。

III. 貸借対照表等に関する注記

1. 有形固定資産の減価償却累計額

56,403千円

IV. 株主資本等変動計算書に関する注記

1. 発行済株式総数

1,734 株

V. 一株当たり情報に関する注記

1. 一株当たり純資産額は、9,065.69円であります。

2. 一株当たり当期純利益は、3,912.56円であります。

以 上

令和7年度 宍粟メイプル(株) 事業計画書

1. 本年度事業の位置づけ

本年度は令和5年度に策定した3年計画の「宍粟メイプル復活戦略ストーリー」最終年度であり、また5か年計画の「新たな経営改善計画」では2年目を迎えます。これらのプランでは、弊社の厳しい経営状況を改善するため、社員が一つになり地域に根差した第三セクターとしての位置づけを再認識し、豊富な資源と施設のポテンシャルを活かし、最大限効果を発揮することを目指しています。

この主要計画に基づき事業を進める中で過去2か年を振り返ると、インバウンド復活や人流の活性化が後押しとなり観光産業や物流産業の勢いが出てきたものの、大都市や名高い観光地ほどの効果は地方では見られず、人材不足や人件費、資機材及び燃料費の高騰が経営の大きな負担になっていることは否めません。

しかしながら、人口減少がもたらす様々な影響が深まる本市において、その課題解決には交流人口を増やすことが一番重要であり、あらゆる角度からチャレンジする、アクションをおこすことが地域活力を取り戻す最大かつ唯一の方法と考えています。

そのためには、第三セクターであるわが社の存在意義と経営理念に今一度立ち返り、地域や来訪者に心から愛され利用していただける「道の駅はが」「道の駅みなみ波賀」「東山フォレストステーション」に深化させ、復活戦略ストーリーで示す3年目の計画目標である「果敢な挑戦期」にならなければなりません。

については、以下のとおり7年度事業計画を策定し、引き続き計画的かつ戦略的に事業を推進するものとします。

2. 基本理念

「宍粟市の限りない発展を願い、中山間地の特性を活かした商品開発及び観光振興を図り、社員と地域住民の幸せを目指す」

3. 社長通達

- 1) 従業員のこと ①笑顔で挨拶 ②ヒト、モノ、コトに絶対感謝 ③この地域を好きになる
- 2) 仕事のこと ①整理と整頓 ②働く意味を深く知る ③この仕事を好きになる
- 3) 経営のこと ①徹底的に考える ②支出を図り、収入を制す ③この職場を好きになる

4. 令和7年度 シーズン・キャッチコピー

- ①「今在ることは、全ての事物のお陰です。を 浸透させ、果敢に挑戦」
- ②「挑戦とは、考えること、あきらめないこと。そしてみんな喜び合うこと」

5. 経営目標

1) 基本的事項

- ①「果敢に挑戦する」を実践し、来訪者にもっと「ワクワク」を実感していただく。
- ②部門ごとの重点取組課題をしっかりと理解し、ひとり一人が目標に向かって行動をおこす。
- ③総合シフト制を深化させ、自己のスキルアップと生産効率の向上、人件費抑制による経営改善を図る。
- ④成果指標1:企画、イベントの充実による集客に注力し、対前年度集客 10% 増
- ⑤成果指標2:売店、パン工房、レストラン、宿泊施設の客単価 100 円/人 増
- ⑥引き続き徹底した整理・整頓と在庫管理により、無駄がなく、質の高い経営を実現する。
- ⑦上記の取り組みにより、可能な限り経常損益目標の上乗せを目指す。

2) 部門別の売上目標と経常損益

グループ売上目標金額 4 億 5,200 万円、経常損益 1,600 万円

◆部門別売上目標と経常利益

部門	道の駅はが		道の駅みなみ波賀			産品加工所	フォレスト ステーション
	売店	食堂	売店	パン工房	レストラン		
売上高	1,730 万円	600 万円	12,900 万円	3,250 万円	3,400 万円	4,520 万円	18,800 万円
経常損益	15 万円	38 万円	460 万円	330 万円	20 万円	57 万円	680 万円

報告第7号

播磨いちのみや株式会社令和6年度決算書及び令和7年度事業計画書等の提出について

地方自治法（昭和22年法律第67号）第243条の3第2項及び地方自治法施行令（昭和22年政令第16号）第173条の5第1項の規定により、播磨いちのみや株式会社の令和6年度決算書及び令和7年度事業計画書等を提出する。

令和7年8月29日提出

宍粟市長 福元晶三

第26期営業概況

第26期（令和6年4月1日～令和7年3月31日まで）の営業概況について、29号線を取り巻く営業環境は、人口減少・交通量減少により年々厳しさを増しているのが現実です。

このような経営環境の中、会社の危機意識の徹底をはかり従業員一丸となり収益確保の為の積極的な姿勢と人件費及び経費削減の徹底した取組を実行してまいりました。

各部門の営業概況は以下の通りです。

物販部門においては、“強み”である品質を重視した果物販売強化を実施、常に売り場を目を配り品薄にならないよう、また、品質の低下した品が放置されていない様、季節ごとに見せ場を作る努力を重ねまた、ご利用頂くお客様から京阪神にもこれだけの品揃えの店は存在しない。楽しいお店。と多くのお客様方から高評価いただける店へと進化し店頭販売コーナーもリニューアルにより新たなリピーター確保につながりました。以上のような日々の努力の結果、売上高は、前年比103%の105,042千円、経常利益は10,178千円の増収増益となりました。

レストラン部門においては、新たなメニュー開発を実施しおふくろ飯・揚げたて天ぷらを主軸にリピーター確保に努めてまいりましたが、人員不足で休業せざるをえない状況になる日も多く機会損失につながり減収の一因となりました。売上高は、前年比85.6%の22,992千円、経常利益は-7,591千円の減収減益となりました。

全社での経常利益は2,568千円という結果となり、前期-209千円から2,777千円増益という結果となりました。

詳しくは、次ページ決算報告書の通りです。

第 2 6 期

決 算 報 告 書

令和 6年 4月 1日から

令和 7年 3月 31日まで

播磨いちのみや 株式会社
(法人番号：6140001039365)

販売費及び一般管理費の計算内訳

令和 6年 4月 1日から
令和 7年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	金 額
給料・手当	22,408,702
旅費交通費	308,602
広告宣伝費	57,909
リース料	2,624,860
被服費	110,607
車両・メンテナンス費	673,432
保守・メンテナンス費	470,000
諸役員手数料	1,961,306
役員報酬	6,480,000
法定福利費	3,272,136
福厚生却費	32,810
減価償却費	736,738
施設使用料	351,276
修繕費	292,800
水道通信費	1,160,439
水租光熱費	5,293,887
寄付金	1,570
接待交際費	53,015
保険料	77,293
備品消耗品費	453,133
環境衛生費	2,997,048
顧問料	2,450,333
貸倒償却	1,470,040
雑費	8,178
合 計	241,830
合 計	53,987,944

棚卸資産の計算内訳

令和 7年 3月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額
商貯蔵品	5,082,947
蔵品	137,000
合 計	5,219,947

株主資本等変動計算書

令和 6年 4月 1日から
令和 7年 3月 31日まで

(単位：円)

I	株 主 資 本		
1.	資 本 金		
	当期首残高		20,000,000
	当期変動額		0
	当期末残高		20,000,000
2.	利 益 剰 余 金		
(1)	利 益 準 備 金		
	当期首残高		940,000
	当期変動額		0
	当期末残高		940,000
(2)	そ の 他 利 益 剰 余 金		
線 越 利 益 剰 余 金			
	当期首残高		-8,087,994
	当期変動額		
	当期純利益	2,383,672	2,383,672
	当期末残高		-5,704,322
	そ の 他 利 益 剰 余 金 合 計		
	当期首残高		-8,087,994
	当期変動額		
	当期純利益	2,383,672	2,383,672
	当期末残高		-5,704,322
	株 主 資 本 合 計		
	当期首残高		12,852,006
	当期変動額		
	当期純利益	2,383,672	2,383,672
	当期末残高		15,235,678
II	評 価 ・ 換 算 差 額 等		
	当期首残高		0
	当期変動額		0
	当期末残高		0
III	新 株 予 約 権		
	当期首残高		0
	当期変動額		0
	当期末残高		0
	純 資 産 の 部 合 計		
	当期首残高		12,852,006
	当期変動額		
	当期純利益	2,383,672	2,383,672
	当期末残高		15,235,678

△



個別注記表

令和 6年 4月 1日から

令和 7年 3月31日まで

I. この計算書類は、「中小企業の会計に関する基本要領」によって作成しています。

II. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法による原価法を採用しております。

2. 固定資産の減価償却方法

(1)有形固定資産

定率法又は旧定率法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物（附属設備を除く）については旧定額法、平成19年4月1日以後に取得した建物（附属設備を除く）については定額法、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。

(2)リース資産

法人税法の規定に基づくリース期間定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1)貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、法人税法に規定する法定繰入率により計算した回収不能見込額を計上しております。

4. 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式を採用しております。

III. 貸借対照表等に関する注記

1. 有形固定資産の減価償却累計額 23,279,805円

IV. 株主資本等変動計算書に関する注記

1. 発行済株式総数 400株

V. 一株当たり情報に関する注記

1. 一株当たり純資産額は、38,089.19円であります。

2. 一株当たり当期純利益は、5,959.18円であります。

以上

第27期 道の駅播磨いちのみやの取組について

(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

令和5年の定時株主総会において、‘花と緑‘道の駅構想3か年計画について取締役の皆様にお諮りし、構想を進めるにあたり経費を要することについても異議なくご賛同いただき昨年より(株)ホームセンターアグロ様にご参画いただきご指導を賜りながら進めて参りました。着手し、いよいよ3年目を迎えました。

‘花と緑‘道の駅構想3か年計画の根本である政治家大隈重信氏の思想（花と緑は、地域社会や文化に七つの大きな効果をもたらす、感動、交流、健康、環境、教育、研究開発、経済、国づくり町づくりにおいて大いに取り入れるべきである）を店頭オブジェに掲げ日々花と緑を生業として七つの効果の意味を実感体感いたしました。当店に立ち寄られる政治家の皆様にもご共感いただき進めております。

第27期は、2025年4月‘開業25周年春の感謝祭イベント‘開催あらスタート、イベント企画の段階で駐車場の混雑回避もイベント成功の要とし‘春の感謝祭‘を4月から6月までの3か月間開催、‘夏の感謝祭‘を7月から8月までの2か月間開催、‘秋の感謝祭‘を9月から11月まで開催する事と致しました。

感謝祭開催の目的

- 1・客数増
- 2・お買上点数増
- 3・店舗のクオリティ向上

《実施事項》

- ①長期開催として駐車場の混雑を回避し高齢のお客様、一見のお客様にも気軽に安心してご来店いただく。
- ②従来のおおさか鶴見花市場に加え新たに岡山花市場とも4月より取引を開始する。
- ③仕入れた花鉢を加工（寄せ植え・植え替え等）する。
- ④‘花と共に‘をコンセプトとし毎週鮮度良く異なった品種の花々を仕入れ店頭展開し感謝祭25%割引する。（夏は観葉植物等）
- ⑤和食レストランでは、顧客満足、リピーター確保、店頭販売商品の販促を目的として人気メニュー（春は食後おふくろ定食）に、店頭販売ミニソフトクリームをご提供。
- ⑥スタッフの志気力向上とお客様へ接客向上。（若手スタッフの育成と組織力向上）

また、イベント開催にあたりインスタグラム・チラシ配布（神戸市住宅地などでポスティング）等で多くのお客様方に口コミで輪を広げていただけるように展開していきます

今後開催予定の夏・秋の感謝祭については、売店では、リピーターのお客様の多い旬の果物販売を中心として新たな顧客開拓のための花と緑のイベントを継続し、店頭販売のソフトクリームに果物を取り入れた‘播磨いちのみや’独自のスペシャルソフトクリームを展開してまいります。

和食レストランでは、前期は休業日が多くお客様にご迷惑をおかけし客離れにつながりましたが、今期は、夏休みと秋の行楽シーズンは、人員調整を行い定休日を減らし増収をめざします。このような取組みを実施し今期の計画は、別紙のとおりです。

目標変動損益計算書

8年 3月期(令和 7年 4月 1日～令和 8年 3月31日)

商号：播磨いちのみや 株式会社

作成：R 7. 5.30(13:07)

(単位：千円)

項目		8年 3月期計画 (A)	構成比	7年 3月期実績	構成比	差額 (A-B)	対比 (A/B)	注	備考
売上高	商品売上高	103,579	80.9	103,578	80.9		100.0		
	レストラン売上高	22,994	18.0	22,992	18.0	1	100.0		
	温泉・宿泊等売上高		0.0		0.0				
	業務委託収入等	1,476	1.2	1,476	1.2		100.0		
	値引・戻り高(△)		0.0	11	0.0	-11			
純売上高		128,049	100.0	128,035	100.0	13	100.0		
変動費	期首棚卸高	5,083	4.0	4,544	3.5	538	111.9	*	
	商品仕入高	64,076	50.0	64,742	50.6	-666	99.0		
	材料仕入高	8,479	6.6	8,483	6.6	-4	99.9		
	自販機仕入		0.0		0.0				
	商品仕入高4		0.0		0.0				
	仕入値引(△)	2	0.0	1	0.0		133.3		
	仕入高合計	72,553	56.7	73,224	57.2	-671	99.1		
	その他変動費		0.0		0.0				
	月末棚卸高(△)	5,109	4.0	5,082	4.0	26	100.5	*	
共通原価配賦									
変動費合計	72,527	56.6	72,685	56.8	-158	99.8			
限界利益	55,522	43.4	55,349	43.2	172	100.3			
固定費	給与・手当	28,471	22.2	28,888	22.6	-417	98.6		
	賞与		0.0		0.0				
	福利厚生費等	3,309	2.6	3,304	2.6	4	100.1	*	
	人件費計	31,780	24.8	32,193	25.1	-413	98.7		
	(労働分配率)	57.2%		58.2%		-1.0%			
	水道光熱費	5,294	4.1	5,293	4.1		100.0		
	環境衛生費	2,450	1.9	2,450	1.9		100.0		
	消耗品費	5,630	4.4	5,621	4.4	8	100.1	*	
	販売費	1,591	1.2	1,587	1.2	3	100.2	*	
	管理費	5,282	4.1	5,291	4.1	-9	99.8		
	その他固定費	8	0.0	8	0.0		97.8		
	営業外損益	-1,208	-0.9	-1,207	-0.9				
	他の固定費計	19,047	14.9	19,046	14.9		100.0		
	部門固定費計	50,827	39.7	51,239	40.0	-412	99.2		
	部門達成利益	4,695	3.7	4,109	3.2	585	114.2		
費用	減価償却費	740	0.6	736	0.6	3	100.4	*	
	施設使用料	348	0.3	351	0.3	-3	99.1		
	保険料	451	0.4	453	0.4	-2	99.5		
	設備費計	1,539	1.2	1,541	1.2	-2	99.9		
	部門貢献利益	3,156	2.5	2,568	2.0	587	122.9		
	共通固定費配賦								
	部門貢献利益(配賦後)	3,156	2.5	2,568	2.0	587	122.9		
	棚卸高増減(△)								
固定費合計	52,366	40.9	52,780	41.2	-414	99.2			
経常利益	3,156	2.5	2,568	2.0	587	122.9			

(注)純売上高の「対比」を超える科目に*印を表示しています。

報告第8号

有限会社伊沢の里令和6年度決算書及び令和7年度事業計画書等の提出について

地方自治法（昭和22年法律第67号）第243条の3第2項及び地方自治法施行令（昭和22年政令第16号）第173条の5第1項の規定により、有限会社伊沢の里の令和6年度決算書及び令和7年度事業計画書等を提出する。

令和7年8月29日提出

宍粟市長 福元晶三

第 29 期 事業報告

(令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日)

<概況>

令和 6 年度は、宿泊、飲食共に前年を少し上回る集客、売上を計上いたしました。

売上高前年比 5.2%増、限界利益も 5.7%改善いたしました。

資材、食材等、物価の高騰を値上げにより吸収いたしました。浴室用配管の老朽化による水漏れが多発し、固定費が前年比 2.7%増となり、当期純損失 893 千円を計上いたしました。

<施設利用状況>

1. 宿泊部門

平日は稼働率を上げるべく、ビジネス利用客を取り込みました。アラカルトプラン朝食付きプランを中心に販売いたしました。土曜日、祝祭日前日は家族連れ、観光客の利用が多く、料金設定を変更いたしました。インバウンド需要は例年並みでした。

3 期比較客室稼働率

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
4 年度	77%	82%	83%	77%	91%	79%
5 年度	78%	73%	65%	79%	86%	77%
6 年度	78%	81%	70%	78%	84%	83%
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
90%	92%	92%	77%	77%	84%	83%
78%	90%	82%	57%	75%	74%	76%
81%	84%	73%	71%	70%	80%	78%

6 年度定員稼働率（月間宿泊者数/月間収容人数）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
5 年度	32%	31%	25%	33%	46%	28%
6 年度	31%	34%	27%	33%	45%	32%
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
32%	34%	35%	28%	34%	36%	31%
29%	48%	34%	32%	32%	35%	34%

インバウンド需要について（延人数）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
1 人	8 人	9 人	0 人	4 人	0 人	
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
0 人	4 人	6 人	0 人	5 人	0 人	37 人

2.入浴部門

日帰り入浴施設として市民への憩いの場の提供を行っています。

利用人数は寒い季節が多く、さつきマラソン等、イベントや夏季はアウトドアに伴う需要で増加します。

回数券を利用、月間パスポートも常時8名の利用があります。



3.飲食部門

発酵文化を取り入れた季節感のあるメニューを提供しています。

朝食の価格を値上げいたしました。

旬彩蔵販売（福崎店、山崎店）

単位：円

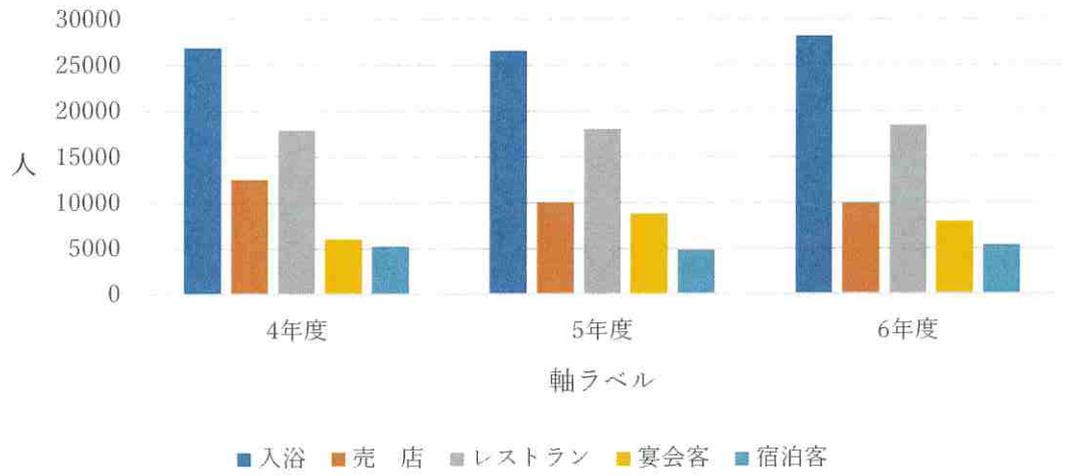
令和3年度	7,268,188
令和4年度	9,610,572
令和5年度	11,430,320
令和6年度	10,791,627

飲食部門売上状況

単位：円

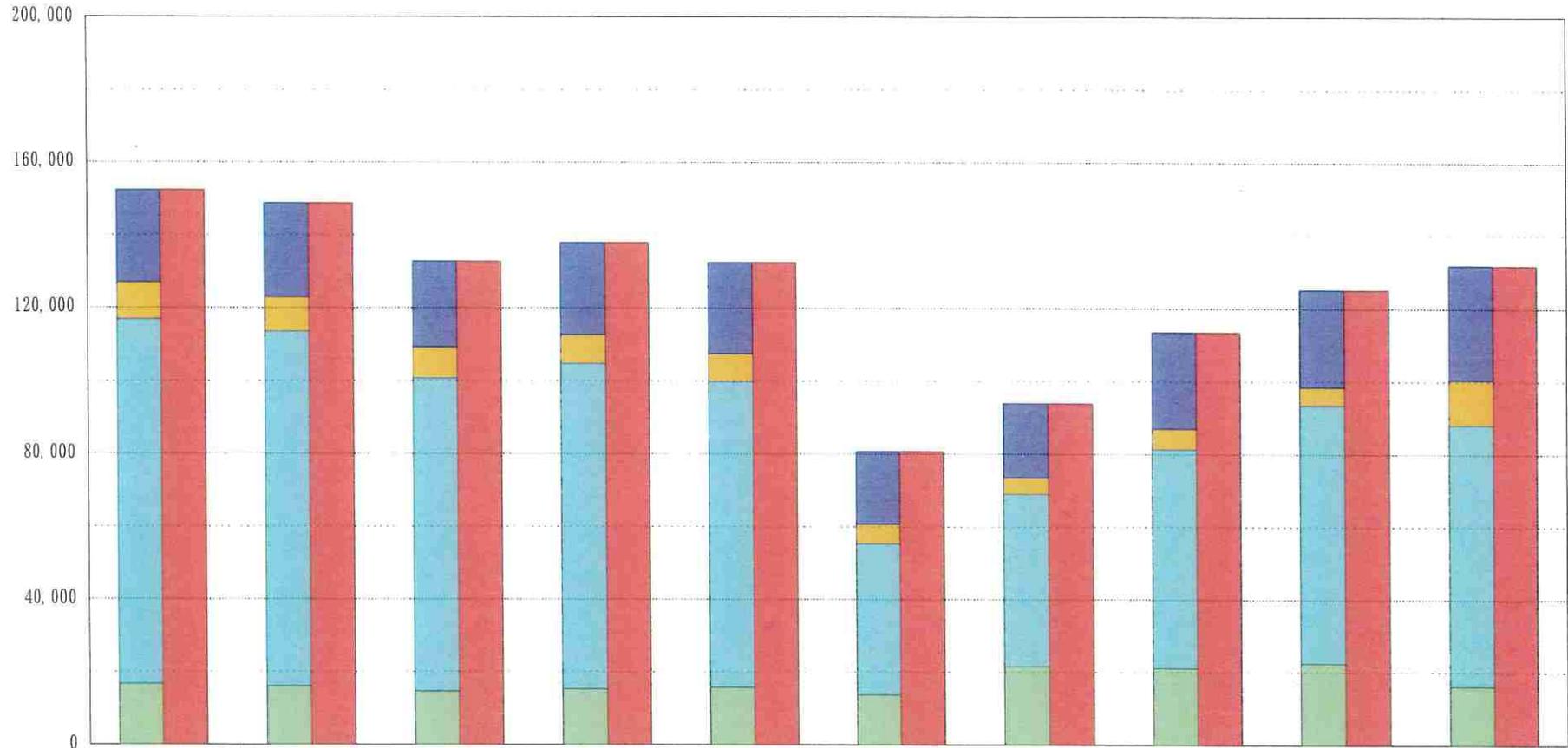
	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
宴会	6,551,694	9,201,140	19,833,199	32,670,847	33,666,385
レストラン	35,032,464	38,284,573	40,444,681	38,368,709	38,198,317
内（テイクアウト）	7,301,290	14,319,007	13,670,404	14,190,163	13,918,881
合計	41,584,158	47,485,713	60,277,880	71,039,556	71,864,675

3期利用人数比較



10期比較科目別売上高推移グラフ

(千円)



記号	項目	27年 4月から 28年 3月まで	28年 4月から 29年 3月まで	29年 4月から 30年 3月まで	30年 4月から 31年 3月まで	31年 4月から 2年 3月まで	2年 4月から 3年 3月まで	3年 4月から 4年 3月まで	4年 4月から 5年 3月まで	5年 4月から 6年 3月まで	6年 4月から 7年 3月まで	平均 伸び率
■	売上高 (前年比)	25,274 17 (102.4%)	25,852 17 (102.3%)	23,595 18 (91.3%)	25,325 18 (107.3%)	25,189 19 (99.5%)	19,949 25 (79.2%)	20,277 22 (101.6%)	26,647 23 (131.4%)	26,898 21 (100.9%)	31,388 24 (116.7%)	102.4
■	指定管理料 (前年比)	10,229 7 (87.2%)	9,377 6 (91.7%)	8,392 6 (89.5%)	7,830 6 (93.3%)	7,630 6 (97.4%)	5,373 7 (70.4%)	4,610 5 (85.8%)	5,446 5 (118.1%)	4,776 4 (87.7%)	12,318 9 (257.9%)	100.5
■	飲食売上高 (前年比)	100,230 66 (97.4%)	97,709 66 (97.5%)	86,049 65 (88.1%)	89,418 65 (103.9%)	84,032 63 (94.0%)	41,584 52 (49.5%)	47,485 51 (114.2%)	60,277 53 (126.9%)	71,039 57 (117.9%)	71,864 55 (101.2%)	96.5
■	入浴売上高 (前年比)	16,526 11 (93.2%)	15,857 11 (96.0%)	14,691 11 (92.6%)	15,371 11 (104.6%)	15,802 12 (102.8%)	13,714 17 (86.8%)	21,478 23 (156.6%)	21,140 19 (98.4%)	22,537 18 (106.6%)	16,228 12 (72.0%)	99.1
■	売上値引・戻り高 (前年比)	2 0 (23.6%)	0 0 (0.0%)	0 0	11 0	0 0 (0.0%)	0 0	0 0	0 0 (0.0%)	0 0	0 0	76.8
■	純売上高 (前年比)	152,258 100 (97.0%)	148,797 100 (97.7%)	132,728 100 (89.2%)	137,934 100 (103.9%)	132,654 100 (96.2%)	80,621 100 (60.8%)	93,851 100 (116.4%)	113,512 100 (120.9%)	125,251 100 (110.3%)	131,799 100 (105.2%)	98.3

有限会社伊沢の里 株主総会

第1号議案

第 2 9 期

決 算 報 告 書

令和 6 年 4 月 1 日から

令和 7 年 3 月 3 1 日まで

有 限 会 社 伊 沢 の 里

(法人番号:3140002032512)

貸借対照表

代表者 富田 健次

令和 7年 3月 31日現在

(単位:円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資 産 の 部)		(負 債 の 部)	
I 流 動 資 産 (現 金 及 預 金)	69,665,371	I 流 動 負 債 (買 掛 金)	14,885,505
棚 卸 資 産 (前 未 立 仮 貸 倒 引 当 金)	63,807,461	未 払 掛 払 費 用 (未 払 法 人 税 未 払 消 費 税 受 引 当 金)	3,322,788
	2,515,809		8,728,838
	1,806,514		323,379
	24,156		185,000
	210,556		920,500
	33,463		605,000
	1,283,198		800,000
	15,786		
II 固 定 資 産 (有 形 固 定 資 産)	8,499,874	II 固 定 負 債 (長 期 借 入 金)	39,845,251
建 構 物 (機 械 運 搬 具 備 品)	7,090,144	長 期 未 払 金	30,937,000
機 械 運 搬 具 備 品	1,112,985		8,908,251
機 械 運 搬 具 備 品	38,601		
機 械 運 搬 具 備 品	2		
機 械 運 搬 具 備 品	4		
機 械 運 搬 具 備 品	253,719		
機 械 運 搬 具 備 品	358,683		
機 械 運 搬 具 備 品	5,326,150		
無 形 固 定 資 産 (ソ フ ト ウ ェ ア 電 話 加 入 権)	1,302,340	負 債 の 部 合 計	54,730,756
	552,500	(純 資 産 の 部)	
	749,840	I 株 主 資 本 (1. 資 本 剰 余 金)	23,434,489
投 資 其 他 の 資 産 (出 資 長 期 前 払 費 用)	107,390	2. 資 本 剰 余 金	0
	42,200	3. 利 益 剰 余 金 (1) 利 益 準 備 金 (2) 其 他 利 益 剰 余 金 (別 途 積 立 金 繰 越 利 益 剰 余 金)	3,434,489
	55,290		1,400,000
	9,900		2,034,489
			33,000,000
			30,965,511
III 繰 延 資 産	0	II 評 価 ・ 換 算 差 額 等	0
		III 新 株 予 約 権	0
資 産 の 部 合 計	78,165,245	純 資 産 の 部 合 計	23,434,489
		負 債 ・ 純 資 産 の 部 合 計	78,165,245

損益計算書

令和 6年 4月 1日から
令和 7年 3月 31日まで

(単位：円)

科 目		金 額	
I	売上高 指 定 飲 入 売 上 管 理 上 上 高 値 引 ・ 戻 り 高	31,388,985 12,318,180 71,864,702 16,228,310	△ 131,800,177 627 131,799,550
II	売上原価 期 首 棚 卸 商 品 仕 入 合 未 棚 卸 期 上 総 利 売 上 総 利	31,146,192	1,436,726 31,146,192 32,582,918 1,620,017 30,962,901 100,836,649
III	販売費及び一般管理費 販 販 及 一 般 管 理 費 売 売 費 及 一 般 管 理 費 営 業 損 失		101,903,978 101,903,978 1,067,329
IV	営業外収益 受 取 利 息 割 引 益 受 取 配 当 料 金 入 雑 収 入		4,728 1,200 846,449 852,377
V	営業外費用 支 払 利 息 割 引 料 雑 損 失		234,968 443,361 678,329
	経 常 損 失		893,281
VI	特別利益 貸 倒 引 当 金 戻 入 益		7,025 7,025
VII	特別損失 固 定 資 産 売 却 ・ 除 却 損		3,096,920 3,096,920
	税引前当期純損失		3,983,176
	法人税、住民税及び事業税		185,000
	当期純損失		4,168,176

販売費及び一般管理費の計算内訳

令和 6 年 4 月 1日から
令和 7 年 3 月 31日まで

(単位：円)

科 目	金 額
給与	43,045,311
旅費	48,042
広告	647,250
運賃	1,869
支払手数料	9,296,515
退職金	463,000
雑費	1,484,404
従業員賞与	1,818,900
福祉厚生費	54,480
法定福利費	3,856,508
減価償却費	1,605,265
賃借料	24,400
修繕費	1,316,052
水道料	2,677,926
通信料	437,962
租税	21,421,415
寄附金	224,761
接待費	3,000
備品	153,227
管保料	317,678
消耗品	4,652,023
諸費	765,000
燃料費	119,600
雑費	5,457,399
合計	2,011,991
合計	101,903,978

棚卸資産の計算内訳

令和 7 年 3 月 31日現在

(単位：円)

科 目	金 額
商貯蔵品	1,620,017
合計	186,497
合計	1,806,514

令和7年度事業計画 伊沢の里

コロナ禍よりようやく日常を取り戻し、待ち望んだ需要回復に向けての準備をしているところ、宿泊、飲食共に徐々に団体予約が入るようになってまいりました。

インバウンド需要も観光地を中心に増加していることを受けて遠隔地である当地にも僅かでは有りますが来客も見えます。長らく人々が我慢していた会食需要の回復、拡大の受け皿としての利用を目論みます。しかしながら今後は少子化、人口減少等マーケットの縮小は避けられず、独自性と単価アップの高付加価値の追求、人手を省き効率化を求めなければなりません。

<宿泊部門> 売上目標 25,000 千円

「ほっと、ひといき」の気取らない宿として便利で快適に滞在していただくことを目標とします。ハイシーズン、オフシーズンの価格帯の変更による利益の確保に努めます。

オフシーズン、平日の稼働率を上げる事が重要であるため、ビジネス客の集客を継続します。今後の観光旅行者の増加に伴うインバウンドの獲得にも力を入れます。

<入浴部門> 売上目標 17,000 千円・指定管理料 11,818 千円

地域住民の銭湯としての役割として、利便性の向上により満足度を上げ、リピーターづくりを進めます。イベント時の利用拡大に努めます。

設備の老朽化が喫緊の問題であり、市と協議を持って計画的に改修を行います。

<飲食部門> 営業収益目標 73,000 千円

(レストラン 25,000 千円 テイクアウト 14,000 千円 宴会 34,000 千円)

飲食部門ではとりわけ宴会の獲得、季節の節目にある忘年会、新年会、歓送迎会、法要の獲得と更にリピートしてもらえるサービスの提供をいたします。

売上を上げるためには平日の稼働が鍵となり、シニア層をターゲットに同窓会、自治会へのアプローチをします。

同時にテイクアウトも継続、推進し、オフシーズンや予約の無い場合にも売り上げを確保致します。

<売店部門> 宿泊部門・入浴部門・飲食部門へ配分

旅行者の増加に伴う土産としての他では買えない、西播磨産品の発掘、拡充に努めます。

土産商品の需要が縮小する中、日帰り入浴客向け、レストラン利用者向けへの的を絞った商品の設置と飲食部門のテイクアウト商品の販売に注力致します。

<ふるさと工房・ふるさと広場部門> 営業収益目標 700 千円・指定管理料 2,500 千円

そばうち教室の継続、地元の生産者と連携した産品を使った体験・教室の開催を検討します。

グランドゴルフの利用者が増加しており、広場の芝生の手入れや清掃等環境整備に努める一方伊沢の里の飲食や宿泊へと繋げるプランや方策を充実させます。

令和7年度収支予算計画(自主事業・指定管理業務)

第30期(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

商号: 有限会社 伊沢の里

(千円・税抜)

勘定科目名		6年度予算	7年度予算	差引額	備 考	
営業 収益	1	宿泊・休憩売上高・工房収入	26,750	30,000	3,250	宿泊料 25,000 休憩・会議使用料 800 売店 3,500 工房収入 700
	2	売店売上高	12,318	14,318	2,000	入浴施設 11,818 ふるさと工房 2,500
	3	レストラン・宴会売上高	74,000	73,000	-1,000	レストラン 25,000 テイクアウト 14,000 宴会 34,000
	4	入浴・物販売上高	17,492	17,000	-492	入浴料 15,000 物販(アメニティー、売店) 2,000
純売上高		130,560	134,318	3,758		
売上 原価	5	宿泊・休憩	2,250	3,150	900	部屋菓子 200 アメニティー 150 売店 2,800
	6	レストラン・宴会	26,000	26,000		各業者仕入
	7	入浴	2,150	2,200	50	アメニティー 200 ボディソープ・シャンプー 200 売店 1,800
売上原価		30,400	31,350	950		
売上総利益		100,160	102,968	2,808		
販売 費及 び一 般管 理費	9	給与手当	46,000	47,000	1,000	従業員25名
	10	旅費交通費	10	50	40	
	11	広告宣伝費	800	800		広告・看板 パンフレット 入浴券、宿泊券 礼状DMその他
	12	運賃	5	5		
	13	支払手数料	6,800	7,900	1,100	自動ドア保守 ボイラー保守 エレベーター保守 電気管理 インターネット予約関連
	14	退職金	530	480	-50	中小企業退職金共済加入
	15	雑給	1,300	1,350	50	シルバー人材センター委託、送迎、アルバイト
	16	従業員賞与	2,450	2,450		従業員25名
	17	福利厚生費	100	100		健康診断 置き薬 制服
	18	法定福利費	6,400	4,100	-2,300	社会保険
	19	減価償却	2,300	2,000	-300	車両 機械・装置建物
	20	賃借料	24	24		看板設置敷地料
	21	修繕費	2,000	2,000		ポンプ エアコン 他
	22	リース料	2,700	3,200	500	リネン関係(宿泊、入浴) コピー機 会計ソフト・システム 他
	23	通信費	450	450		電話代 切手 インターネット他
	24	水道光熱費	17,900	19,000	1,100	電気料金 水道料金
	25	租税公課	220	220		自動車税 車検重量税 印紙税他
	26	寄付金	7	7		
	27	接待交際費	46	150	104	中元歳暮他
28	保険料	325	325		自動車共済 損害保険 建物共済 他	
29	備品・消耗品費	4,000	4,000		宿泊関係 入浴関係	
30	管理諸費	800	800		稲田会計事務所 会計顧問料他	
31	諸会費	100	120	20	商工会費・防火協会費・社会保険協会費・観光協会費・納税協会	
32	燃料費	4,300	5,600	1,300	重油・ガソリン・ペレット代	
33	雑費	1,700	2,000	300	ろ過配管循環洗浄 工房 新聞代他	
販管費合計		101,267	104,131	2,864		
営業利益		-1,107	-1,163	-56		
営業外収益		1,500	1,500		リラクゼーション 自販機・マッサージ機他 助成金	
営業外費用						
経常利益		393	337	-56		

報告第9号

公益財団法人しそ森林王国観光協会令和6年度決算書及び令和7年度事業計画書等の提出について

地方自治法（昭和22年法律第67号）第243条の3第2項及び地方自治法施行令（昭和22年政令第16号）第173条の5第1項の規定により、公益財団法人しそ森林王国観光協会の令和6年度決算書及び令和7年度事業計画書等を提出する。

令和7年8月29日提出

宍粟市長 福元晶三

事業報告書

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

I 公益目的事業会計

公1 森林と共生する観光地域づくり

宍粟市が誇る森林をはじめとする豊かな地域資源を保全するとともに、それらを活用して交流人口の増加を促し、観光による地域づくりを推進する。

1 地域資源の発掘・保全・育成事業

森林をはじめとする豊かな地域資源を保全・育成するため、次の事業を実施した。

(1) 自然資源の保全事業

事業名	事業内容	事業実績	備考
宍粟 50 名山登山ルート周辺管理事業	宍粟 50 名山を訪れる登山者の安全を確保するため、登山ルートの現状を調査し、必要に応じ登山道の整備や案内板を設置する。	<ul style="list-style-type: none"> 登山ルートの現状調査 宍粟 50 名山ガイドクラブへ委託 調査結果を HP 等で周知 登山ルートの整備 定期調査による草刈・倒木処理 (50 山+5 山) 登山口ポールの確認 登山ポールの取替 	

(2) 観光資源の保全事業

事業名	事業内容	事業実績	備考
フラワーロード事業	市街地の景観を創出するため、フラワーロード (5ヶ所) の管理を行う。	<ul style="list-style-type: none"> フラワーロード (5ヶ所) の花壇を地元団体へ委託し管理した。 門前花壇……門前老人クラブ 山田花壇……山崎東老人クラブ 八重谷花壇……土万老人クラブ 鹿沢花壇……東鹿沢自治会 山崎南インター花壇……城下第3老人クラブ 	

2 自然とのふれあい等による交流促進事業

地域資源を生かした様々なイベントの開催や自然学習・体験学習の実施などを通じ、自然保護への理解を深めるとともに人と人の交流を促進するため、次の事業を行う。

(1) 自然とのふれあい事業

事業名	事業内容	事業実績	備考
宍粟 50 名山登山事業	豊かな自然資源のひとつである「山」を基軸とした活動を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 宍粟 50 名山ふれあい登山会の開催 春 第1回 (5月18日) 場 所: 水上山 参加者 21名 第2回 (5月26日) 場 所: 氷ノ山 参加者 45名 第3回 (3月23日) 場 所: 秋葉山 参加者 30名 秋 第1回 (9月29日) 場 所: 藤無山 参加者 40名 第2回 (11月10日) 場 所: 大甲山～荒尾山 参加者 38名 ファンクラブ限定登山会 第1回 (6月16日) 場 所: 笠杉山～杉山～段ヶ峰 	

		<p style="text-align: right;">参加者 43名</p> <p>第2回(10月20日) 場 所:三久安山 参加者 47名</p> <p>・岡山県と交流登山会の開催 日 時:6月1日 場 所:ちくさ高原スキー場～長義山～ ダルガ峰～大海里峠～ちくさ高原スキー場 参加者 59名</p> <p>・宍粟50名山冬山登山会 第1回(1月22日) 場 所:三国平～天児屋山 参加者 19名 第2回(2月2日) 場 所:東山 参加者 24名 第3回(2月16日) 場 所:赤谷山 参加者 18名</p> <p>・GoTo宍粟50名山+別選5名山～山頂フォト～ 山の日(8月3日～25日) 応募 424件、113名 秋(10月7日～11月5日) 応募 600件、145名</p> <p>・氷ノ山バスツアー(神姫観光) 登山ガイド派遣 10月20日 参加者 20名 10月26日 参加者 20名 10月30日 参加者 17名</p> <p>[2024年度ファンクラブ会員数] 個人会員 105名 家族会員 21組(44名)</p>	
<p>森林セラピー事業</p>	<p>森の持つ「癒し効果」を活用して、市民・県民の健康づくり及び企業等のメンタルヘルスに寄与した森林セラピー事業を展開する。</p>	<p>森林セラピーの実施 49日・613名 赤西 19日・104名 東山 7日・60名 国見 23日・449名</p> <p>・一般申込 実施状況 24回・91名 (赤西14回56名、東山4回7名、 国見6回28名)</p> <p>・HP掲載イベント 実施状況 実施なし</p> <p>・学校・団体・旅行社 実施状況 15回・416名 (赤西2回33名、東山1回29名、 国見12回354名)</p> <p>・関係団体(市営業部・TOPPAN 健保) 実施状況 8回・99名 (赤西1回8名、東山2回24名、 国見5回67名)</p> <p>・取材・視察 実施なし</p> <p>・その他 赤西2回・7名</p> <p>・森林セラピーソサエティ全国ネットワーク会議 【総会及び研修会】7月1日～2日 会場:東京都(全国町村会館) 1日目 総会 交流会 2日目 研修会</p> <p>癒しの森ガイドの会 ・総会3月22日 21名出席(委任出席13名) ・運営委員会 4回開催 ・企画・研修部会 4月20日 おもてなし研修 9月30日 情報・技術交歓会</p> <p>・広報部会</p>	

		<p>山崎高校 取材対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行社・森林大学・企業との連携 TOPPAN 健保研修、神姫観光ツアー、市営業部モニターツアー、県勤労福祉協会、県市町村職員共済組合、森林大学校、大山自然指導員の会 他受入 ・その他 赤西基地の山開き・山じまい 他 <p>宍粟市ふるさと納税品目に認定 豊中市マチカネポイント対象事業 ひょうごフィールドパビリオン認定 宍粟癒しの森ガイドの会の設置・運営 会員数 34 名 セラピーバイクの実績 ・活動日 4 日 参加 14 名</p>	
最上山もみじ祭り事業	最上山公園もみじ山において、紅葉の盛期に観光客をおもてなしするとともに、各種団体と連携しまち歩きイベント等を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・最上山もみじ祭りの開催 開催日 11月16日～12月1日 会 場 最上山公園もみじ山登り口広場 他 来場者 40,465 人（推計）※11/16～12/8 内 容 来場者への観光(臨時)駐車場設置 しそ酒蔵通り（食と地酒でおもてなし） Yamasaki 商店街ウォーク[秋色祭り] 宍粟 de 朝市（連合商店街） もみじ喫茶（もみじ山山頂） 宍粟山崎手作り甲冑の会 やまさきまち歩きガイド よいまち市（旧山崎幼稚園 園庭） 観光駐車場 4,221 台 その他駐車場 2,020 台（バス含む） ※インターネット上の関西エリアでは、どのサイトでも上位にランクされている。 	

(2) 地域資源活用事業

事業名	事業内容	事業実績	備考
たたら製鉄体験事業	宍粟の重要な地域資源である「たたら」の魅力を PR するため、たたら製鉄を体験できるイベントを開催する。	<ul style="list-style-type: none"> ・たたら製鉄体験イベント イベントの開催なし 	
千年藤まつり事業	大歳神社「千年藤」の開花時期において藤まつりを開催し、観光客の増加を図る。 また、各種団体と連携しまち歩きイベント等を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・藤まつりの開催 開催日 4月25日～5月6日 会 場 大歳神社、山崎連合商店街 他 来場者 12,952 人（推計）※4/25～5/6 内 容 来場者への観光(臨時)駐車場設置 千年藤ライトアップ 山崎ウォーキング&ウォッチ Yamasaki 商店街ウォーク[藤色祭] まち歩きガイド ふじの花喫茶&マーケット 屋台出店・社務所舞台解放 観光駐車場 2,295 台 その他駐車場 1,545 台 	

(3) 森林文化の普及啓発事業

事業名	事業内容	事業実績	備考
観光 PR 事業 (市外観光 PR 事業)	市外で開催されるイベント等へ参画し、宍粟の魅力を PR する。 また、阪神間での知名度の向上を図るため、宍粟オリジナルのイベントを開催する。	【市外イベントへの参画】 姫路お城まつり、佐用ひまわり祭り、アグロイベント、全国都市問題会議、西はりま観光キャンペーンに、ブランドアンバサダー派遣 【市内イベントへの参画】 三笑蔵出し式、さつきマラソン大会、繁盛フィッシングイベント、市民ゴルフ大会、氷ノ山登山会、妙見夏まつり、くにみまつり、夢マルシェ、STS しそう氷ノ山大会、チャリティゴルフ大会、伊沢の里ふれあい文化祭、最上山もみじ祭り、牡蠣祭り、ちくさ高原雪まつりに、ブランドアンバサダー派遣 【主催イベント】 ・宍粟市 PR 活動 日 程 9月15日 場 所 アグロガーデン神戸駒ヶ林店 内 容 ・ブランド認証品販売 ・鮎の塩焼き販売 ・おたのしみ抽選会 ・観光 PR・CM 動画放映 ・観光パンフレット等配付 しそうブランドアンバサダー1名	
観光 PR 事業 (インターネット等活用事業)	ホームページを通じて、宍粟に関する最新の情報をタイムリーに提供する。	・ホームページの常時更新 ・Instagramによる情報発信	
観光 PR 事業 (多目的プロモーションカー活用事業)	宍粟市が所有する「多目的プロモーションカー」を活用して、宍粟市の PR 活動を行う。	・利用実績 15 イベント うち市内での活用 15 回 市外 0 回	
観光 PR 事業 (日本酒発祥の地・発酵のまちづくり事業)	「日本酒発祥の地・発酵のふるさと 宍粟」を PR し、日本酒および発酵文化の普及と交流人口の増加を図る。	「まぼろしの酒三笑」蔵出し 日 程 4月12日 場 所 庭田神社 (宍粟酒蔵通り商店街)	
観光 PR 事業 (映画ルート29 PR 関連)	映画ルート29の全国公開に合わせ、市内撮影地の PR 活動を行う。	・ロケ地マップ・ポスター作成 ・市内各施設でのパネル展示	
しそうブランドアンバサダー設置事業	しそう森林王国女王の後継役として「しそうブランドアンバサダー」を設置し、森林王国のイメージアップを図るとともに、市内外のイベント等へ参画し、森や水の大切さを PR する。	・しそうブランドアンバサダーの設置 2 名 早川 愛子 (姫路市) 亀井 朔大朗 (山崎町) ・イベント等への参画による PR 活動 回数 23 回 延べ 35 名	
フォトコンテスト事業	宍粟の魅力を再発見するとともに、入賞作品を各所で展示し、宍粟の魅力を PR する。	・フォトコンテストの開催 2 年に渡って作品を募集 プリント部門・Instagram部門 募集締切 令和8年1月25日	
ボランティア活動推進事業	森林王国の活動への参加を通じて、より多くの人に森林文化への理解を深めてもらう。	・ボランティア活動への支援 やまさきまち歩きガイドの会ボランティア活動支援(負担金)	

3 観光地域づくりのための特産品開発等の調査・研究事業

観光による地域づくりを推進するためのさまざまな調査・研究を行う。特に、宍粟の産品を活用した「食」の観光資源化に向けた研究開発を図るため、次の事業を行う。

(1) 特産品開発事業

事業名	事業内容	事業実績	備考
食のブランド化推進事業	宍粟の産品を活用した魅力ある「食」を研究開発し、来訪者の増加を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度の新規認証なし ・ブランド認証に向けての相談 2件 	

4 観光地域づくりを担う人材育成に関する事業

宍粟の魅力を再発見することにより、地域に対する誇りや愛着心を醸成するとともに、そうした地域資源の活用方法等を研修することにより、新しい地域づくりの担い手を育成するため、次の事業を行う。

(1) 人材育成のための研修事業

事業名	事業内容	事業実績	備考
観光地域づくり事業	事業者や市民、行政など多様な主体が協力して進める観光地域づくりを進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと宍粟観光プラットフォームの開催 【第1回運営委員会】 日時 令和6年6月6日 場所 道の駅みなみ波賀～道の駅はが～フォレストステーション波賀～道の駅みなみ波賀 参加者 22名 内容 ① E-BIKE 試乗体験 ② 西の奥入瀬 赤西溪谷、原不動滝視察 ③ 森林鉄道乗車体験 交流会 15名参加 【第2回運営委員会】 日時 令和6年11月29日 場所 宍粟防災センター4F会議室 内容 ① 各種事業の中間報告 ② 意見交換等 参加者 27名 【第3回運営委員会】 日時 令和7年3月19日 場所 いちのびあ1Fホール 参加者 22名 内容 ① 地域づくり講演会 講師：(株)トラベルニュース社 奥坊社長 「中小旅行会社からみた宍粟市の魅力と資源の磨き上げのポイント」 ② 運営委員会 令和6年度の取組みについて 令和7年度の取組み(案)について ・アウトドア部会 ・宍粟市道の駅ネットワーク検討会 ・宍粟 NATOaction 会議 中小旅行会社を対象にしたモニターツアー 日時 令和6年9月17・18日 内容 1日目 酒蔵通り、庭田神社、赤西溪谷、音水湖 2日目 森林鉄道乗車体験、ミニモノレール、ふりかえり 	

宍粟 50 名山ファンクラブ事業	宍粟 50 名山愛好者のために、登山会等の情報提供や会員相互の交流を行うファンクラブを設置する。	<ul style="list-style-type: none"> ・宍粟 50 名山ファンクラブの設置 会員数 個人 105 名 家族 21 家族 (44 名) ・ファンクラブ限定登山会の開催 第 1 回 (6 月 16 日) 場 所：笠杉山～杉山～段ヶ峰 参加者 43 名 第 2 回 (10 月 20 日) 場 所：三久安山 参加者 47 名 	
------------------	--	---	--

(2) 観光資源活用事業

事業名	事業内容	事業実績	備考
観光協会賛助会員事業	地域資源を活用して実施するイベントに対して支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・賛助会員数 77 団体 特別団体賛助会員 12 団体 団体賛助会員 18 団体 賛助会員 47 団体 ・賛助会員主催イベント (助成対象) 8 団体 10 イベント 	

(3) 田舎暮らし支援事業

事業名	事業内容	事業実績	備考
地域おこし協力隊事業	都市住民など地域外の人材を地域社会の新たな担い手として受け入れ、地域おこし協力隊として地域力の維持・強化を図る。	地域おこし協力隊の活動支援 1 名 <ul style="list-style-type: none"> ・アウトドア活動推進担当 広瀬 和磨 (令和 5 年度から) ※市北部の観光情報発信、イベント企画	

(4) 人材育成のための研修事業

事業名	事業内容	事業実績	備考
観光案内人育成事業	観光案内を目的に結成されたボランティア団体を支援し、活動の充実を図るとともに新たな人材の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・やまさきまち歩きガイドの会を支援 ・たたらの里ちくさガイドの会を支援 ※西播磨上質ガイド養成講座への参加要請	

(5) サイクルツーリズム事業

事業名	事業内容	事業実績	備考
サイクルツーリズム事業	宍粟市の豊かな自然を感じていただくとともに、新たな観光促進事業としてサイクルツーリズムを推進し、活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・レンタサイクル事業 E-BIKE (電動アシスト機能付マウンテンバイク) のレンタル 35 台 【レンタル箇所】 ① 兵庫県立国見の森公園 5 台 ② フォレストステーション波賀 5 台 ③ くるみの里 5 台 ④ ちくさ高原 5 台 ⑤ 森の案内所 15 台 【利用実績】 5 施設計 403 名 ※参考 セラピーバイク利用 4 回 14 名 上記集計には含まれません。 ・[シソイチ]サイクリングコースの設定 6 月～11 月 達成者 258 名 公式 LINE 登録数 811 名 	

(6) 公益社団法人ひょうご観光本部補助金事業

事業名	事業内容	事業実績	備考
スキー場周辺地域 スポーツ・文化合宿 誘致事業	小雪の影響により但馬・播磨地域のスキー場の観光客の入込が大幅に減少したことから、グリーンシーズンに宿泊需要を取り戻すため、合宿等における宿泊費用の補助を行い県内スキー場への誘客促進を図る。	・宿泊割引支援 2施設 5団体利用 補助金 650,000円	

Ⅲ 法人会計

事業名	事業内容	事業実績	備考
協会の運営	協会の適正かつ円滑な運営を図る。また、関係団体等と連携を図り円滑な事業推進を図る。	・評議員会の開催 ・理事会の開催 ・諸会議の開催 ・関係団体との連携会議	

令和6年度

公益財団法人しろう森林王国観光協会
決 算 書

自 令和6年 4月 1日

至 令和7年 3月 31日

公益財団法人しろう森林王国観光協会

貸借対照表

令和7年3月31日現在

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	848,480	589,573	258,907
普通預金	4,543,460	20,987,918	△ 16,444,458
未収入金	1,722,461	1,563,932	158,529
立替金	36,000	14,600	21,400
仮払金	0	0	0
流動資産合計	7,150,401	23,156,023	△ 16,005,622
2. 固定資産			
(1) 基本財産	110,000,000	110,000,000	0
定期預金	55,853,500	55,853,500	0
土地	54,146,500	54,146,500	0
(2) その他固定資産	1,206,846	1,786,549	△ 579,703
建物	93,445	107,336	△ 13,891
構築物	1,083,394	1,649,206	△ 565,812
機械・装置	2	2	0
器具備品	5	5	0
車両運搬具	0	0	0
ソフトウェア	0	0	0
出資金	30,000	30,000	0
固定資産合計	111,206,846	111,786,549	△ 579,703
資産合計	118,357,247	134,942,572	△ 16,585,325
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	3,289,947	20,873,731	△ 17,583,784
前受金	60,000	0	60,000
預り金	1,352,946	1,571,302	△ 218,356
仮受金	0	0	0
未払法人税等	72,000	72,000	0
2. 固定負債	0	0	0
負債合計	4,774,893	22,517,033	△ 17,742,140
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	110,000,000	110,000,000	0
(うち基本財産への充当額)	(110,000,000)	(110,000,000)	
(うち特定資産への充当額)	()	()	
2. 一般正味財産	3,582,354	2,425,539	1,156,815
(うち基本財産への充当額)	()	()	
(うち特定資産への充当額)	()	()	
正味財産合計	113,582,354	112,425,539	1,156,815
負債及び正味財産合計	118,357,247	134,942,572	△ 16,585,325

正味財産増減計算書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1.経常増減の部			
(1)経常収益			
基本財産運用益	1,057,817	1,008,000	49,817
受取利息	49,817	0	49,817
受取賃借料	1,008,000	1,008,000	0
事業収益	2,231,101	1,869,824	361,277
参加費収益	1,986,701	1,649,064	337,637
商品売上収益	244,400	220,760	23,640
受取補助金等	81,084,213	91,137,879	△ 10,053,666
受取県補助金	890,713	9,092,299	△ 8,201,586
受取市補助金	35,519,726	34,146,860	1,372,866
受取その他補助金	0	0	0
受取県受託金	36,475,500	39,101,000	△ 2,625,500
受取市受託金	8,198,274	8,797,720	△ 599,446
受取その他受託金	0	0	0
受取負担金	1,145,000	1,045,000	100,000
受取県負担金	0	0	0
受取市負担金	1,145,000	1,045,000	100,000
受取その他負担金	0	0	0
賛助会費	917,000	986,000	△ 69,000
賛助会費	917,000	986,000	△ 69,000
雑収益	1,141,504	890,347	251,157
受取利息	4,236	49,831	△ 45,595
雑収入	1,137,268	840,516	296,752
経常収益計	87,576,635	96,937,050	△ 9,360,415
(2)経常費用			
事業費	70,482,683	80,306,231	△ 9,823,548
給料手当	28,161,722	24,353,002	3,808,720
臨時雇賃金	272,000	368,000	△ 96,000
福利厚生費	4,203,793	3,401,103	802,690
旅費交通費	613,282	416,014	197,268
会議費	0	0	0
通信運搬費	778,013	755,249	22,764
消耗什器備品費	0	0	0
消耗品費	4,627,809	5,720,566	△ 1,092,757
備品購入費	1,289,970	324,280	965,690
修繕費	3,625,522	8,807,700	△ 5,182,178
印刷製本費	1,334,892	1,033,268	301,624
燃料費	786,548	889,381	△ 102,833
食糧費	210,096	394,922	△ 184,826
水道光熱費	2,350,236	2,155,286	194,950
賃借料	1,379,680	1,209,760	169,920
保険料	1,023,896	456,599	567,297
諸謝金	339,909	564,839	△ 224,930
広告宣伝費	510,907	372,235	138,672
租税公課	2,509,215	2,257,765	251,450
支払手数料	164,632	174,750	△ 10,118
負担金支出	1,789,052	1,613,839	175,213
委託費	7,393,017	8,899,000	△ 1,505,983
助成金	6,004,329	15,017,414	△ 9,013,085
使用料	284,440	259,940	24,500
研修費	36,520	0	36,520
雑費	5,559	49,700	△ 44,141
仕入支出	207,941	159,932	48,009

減価償却費	579,703	651,687	△ 71,984
管理費	15,865,137	15,260,585	604,552
役員報酬	4,846,464	4,846,464	0
給料手当	6,141,028	5,821,741	319,287
福利厚生費	1,948,671	1,758,800	189,871
旅費交通費	391,584	407,046	△ 15,462
会議費	0	0	0
通信運搬費	0	0	0
消耗什器備品費	0	0	0
消耗品費	49,557	64,872	△ 15,315
修繕費	0	0	0
印刷製本費	0	0	0
燃料費	283,314	252,247	31,067
食糧費	0	0	0
水道光熱費	850,762	791,794	58,968
賃借料	391,732	401,412	△ 9,680
保険料	28,180	47,040	△ 18,860
租税公課	405,505	423,199	△ 17,694
支払手数料	22,902	30,234	△ 7,332
負担金支出	125,000	130,000	△ 5,000
委託費	354,302	259,600	94,702
使用料	26,136	26,136	0
経常費用計	86,347,820	95,566,816	△ 9,218,996
当期経常増減額	1,228,815	1,370,234	△ 141,419
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
過年度損益修正益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
当期経常外増減額			0
他会計振替高			0
法人税・住民税及び事業税	72,000	72,000	0
当期一般正味財産増減額	1,156,815	1,298,234	△ 141,419
期首一般正味財産	2,425,539	1,127,305	1,298,234
期末一般正味財産	3,582,354	2,425,539	1,156,815
			0
Ⅱ 指定正味財産増減の部			0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
期首指定正味財産	110,000,000	110,000,000	0
期末指定正味財産	110,000,000	110,000,000	0
Ⅲ 期末正味財産合計	113,582,354	112,425,539	1,156,815

附 属 明 細 書

1 基本財産及び特定資産の明細

基本財産及び特定資産の明細は、財務諸表の注記に記載している。

財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
該当なし。
- (2) 固定資産の減価償却の方法
定額法及び定率法によっている。
- (3) 引当金の計上基準
該当なし。
- (4) 消費税の会計処理
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産の増減額及びその残高は、次のとおりである。
ただし、特定資産は該当なし。

(単位：円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	55,853,500	0	0	55,853,500
土地	54,146,500	0	0	54,146,500

3 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産の財源等の内訳は、次のとおりである。
ただし、特定資産は該当なし。

(単位：円)

科目	前期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	55,853,500	(55,853,500)	0	0
土地	54,146,500	(54,146,500)	0	0

4 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末高
建物	330,750	237,305	93,445
構築物	8,022,240	6,938,846	1,083,394
機械・装置	2,424,000	2,423,998	2
器具・備品	5,773,050	5,410,795	5
ソフトウェア	362,250	362,250	0

5 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表 上の掲載区 分
補助金						
観光プロモーション事業	宍粟市	0	12,438,397	12,438,397	0	
観光イベント支援事業	宍粟市	0	500,000	500,000	0	
発酵のまちづくり事業	宍粟市	0	900,000	900,000	0	
王国観光協会事業	宍粟市	0	2,200,000	2,200,000	0	
王国観光協会運営	宍粟市	0	15,795,000	15,795,000	0	
やまたびエクスプレス事業	宍粟市	0	1,514,000	1,514,000	0	
最上山もみじ祭り事業	宍粟市	0	2,668,829	2,668,829	0	
ふじまつり事業	宍粟市	0	1,703,500	1,703,500	0	
スキー場周辺合宿誘致事業	兵庫県	0	650,000	650,000	0	
県有施設等燃料高騰対策事業	兵庫県	0	200,928	200,928	0	
地域づくり団体研修交流会	兵庫県	0	39,785	39,785	0	
負担金						
しそブランドアンバサダー設置事業	宍粟市	0	900,000	900,000	0	
観光ガイド育成事業	宍粟市	0	20,000	20,000	0	
観光施設管理事業	宍粟市	0	175,000	175,000	0	
ボランティア活動推進事業	宍粟市	0	50,000	50,000	0	
合計		0	44,238,600	44,238,600	0	

事業計画書

(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

I 公益目的事業会計

公1 森林と共生する観光地域づくり

宍粟市が誇る森林をはじめとする豊かな地域資源を保全するとともに、それらを活用して交流人口の増加を促し、観光による地域づくりを推進する。

1 地域資源の発掘・保全・育成事業

森林をはじめとする豊かな地域資源を保全・育成するため、次の事業を行う。

(1) 自然資源の保全事業

事業名	事業内容	事業計画	備考
宍粟 50 名山登山ルート周辺管理事業	宍粟 50 名山を訪れる登山者の安全を確保するため、登山ルートの現状を調査し、必要に応じて登山道の整備や案内板を設置する。	<ul style="list-style-type: none"> 登山ルートの現状調査 登山ルートの整備 ルート案内板の設置・点検 HP を活用したルート案内等 	

(2) 観光資源の保全事業

事業名	事業内容	事業計画	備考
フラワーロード事業	市街地の景観を創出するため、フラワーロード (5ヶ所) の管理を行う。	<ul style="list-style-type: none"> フラワーロード花壇の植栽管理 	

2 自然とのふれあい等による交流促進事業

地域資源を生かした様々なイベントの開催や自然学習・体験学習の実施などを通じて、自然保護への理解を深めるとともに人と人の交流を促進するため、次の事業を行う。

(1) 自然とのふれあい事業

事業名	事業内容	事業計画	備考
宍粟 50 名山登山事業	豊かな自然資源の 1 つである「山」を基軸とした活動を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 宍粟 50 名山ふれあい登山会の開催 回数 年 4 回 4 月～10 月 定員 各回 40 名 冬山登山会 回数 年 3 回 1 月～2 月 定員 各回 20 名 フォトイベント 山頂フォト写真の募集 山の日 (8/11) 前後 2 週間 秋登山シーズン 10 月 	
森林セラピー事業	森林セラピー基地の認定を受け、森の持つ「癒し効果」を活用し、市民・県民の健康づくり及び企業等のメンタルヘル스에寄与した森林セラピー事業を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> 森林セラピープログラムの実施 (国見の森セラピーロード) 時期 通年 (赤西セラピーロード) 時期 5 月～11 月 (冬季プログラム有) (東山セラピーロード) 時期 通年 企業向け、団体向けプログラム開発 ※E-BIKE を活用したセラピーバイクの磨き上げ及び冬場のプログラム開発 (スノーシューハイク等) 	

		<ul style="list-style-type: none"> 癒しの森ガイドの運営支援 ガイドのスキルアップ研修等及び ガイドの更新講習の実施 ※市の認定制度の導入 イベントでのPR 森林セラピー宿泊プランの創設 	
最上山もみじ祭り事業	最上山公園もみじ山において、紅葉の最盛期に観光客をおもてなしするとともに宍粟の「食」・「発酵」をPRするために、もみじ祭りを開催する。また、商店街を中心にした各イベントと連携するとともに、行楽シーズンの市内周遊をPRする。	<ul style="list-style-type: none"> 最上山もみじ祭りの開催 時期 11月中旬～下旬 ① 地元、酒蔵通り、連合商店街等による各種イベントの開催 ② 弁天池駐車場で観光案内及びブランド認証品等PR ③ 観光駐車場等周辺警備 <p>※市と協賛の酒粕フェアの開催及び市内もみじ祭りとの共催</p>	

(2) 地域資源活用事業

事業名	事業内容	事業計画	備考
たたら製鉄体験事業	宍粟の重要な地域資源である「たたら」の魅力をPRするため、たたら製鉄を体験できるイベントを開催する。	<ul style="list-style-type: none"> ちくさもみじ祭りでのたたら製鉄体験イベントの開催 	
千年藤まつり事業	大歳神社「千年藤」の開花時期に合わせイベントを実施する。 ホームページ等において開花状況をお知らせし、観光客の増加を図り、行楽シーズンの市内周遊をPRする。	<ul style="list-style-type: none"> 臨時駐車場開設及び警備 時期 4月下旬～5月上旬 場所 大歳神社周辺 内容 地元、連合商店街等による各種イベントの開催 駐車場及び大歳神社周辺警備他 	

(3) 森林文化の普及啓発事業

事業名	事業内容	事業計画	備考
観光PR事業 (市外観光プロモーション事業)	市外で開催されるイベントへ参画し、宍粟の魅力をPRする。 また、阪神間での知名度の向上を図るため、宍粟オリジナルのイベントを開催するとともに、インバウンドの受入れについて協議する。	<ul style="list-style-type: none"> 市外イベントへの参画 アグロ・モンベルフレンドフェア他 体験型モデルツアーの実施 「大阪・関西万博」への参加 ひょうご楽市楽座 ひょうごフィールドパビリオン フェスティバル 	
観光PR事業 (情報発信事業)	宍粟の多彩な魅力を発信し、交流人口を増やすことを目的に、さまざまな媒体を活用した情報発信を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 各種媒体を通じた情報発信 オリジナルパンフレットの制作 西の奥入瀬 赤西溪谷の売り出し 	
観光PR事業 (インターネット等活用事業)	ホームページを通じて、観光に関する最新の情報をタイムリーに提供する。	<ul style="list-style-type: none"> DXシステムの導入 ブランド認証品等販売サイト等の開設 ホームページの更新 ホームページライターの募集、育成 	
観光PR事業 (多目的プロモーションカー活用事業)	宍粟市が所有する「多目的プロモーションカー」を活用しPR活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> プロモーションカーのデザイン変更 市内外でのイベントでのPR 	

発酵のまちづくり事業	「日本酒発祥の地・発酵のまち宍粟の歳時記」として、宍粟市と連携しながら日本酒を楽しむイベントや講演会、研修会等を開催し、日本酒や発酵文化の理解を深めるとともに、市内外へのPRを図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・日本酒発祥の地・発酵のまち宍粟のPR ・日本酒発祥の地「庭田神社」で採取された「庭糘」を使用した甘酒を特産品としてPRする。 ・市と連携し、秋のもみじ祭りの時期に酒粕フェアの開催 ・発酵のまちづくり推進協議会事業との連携 	
しろうブランドアンバサダー設置事業	しろう森林王国の象徴としてブランドアンバサダーを設置し、森林王国のイメージアップを図るとともに、市内外のイベント等へ参画し、森や水の大切さをPRする。	<ul style="list-style-type: none"> ・しろうブランドアンバサダーの設置 橋本稚子 ・ 上山奈都実 ・イベント等への参画によるPR活動 	
フォトコンテスト事業	宍粟の魅力を再発見するとともに、入賞作品を各所で展示し、宍粟の魅力をPRする。(令和6年度に案内したものを、令和7年度末で審査実施予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・フォトコンテストの開催 ・フォトコンテスト作品展の開催 	
ボランティア活動推進事業	森林王国の活動への参加を通じて、より多くの人に森林文化への理解を深めてもらう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動への支援 	

3 観光地域づくりのための特産品開発等の調査・研究事業

観光による地域づくりを推進するためのさまざまな調査・研究を行う。

特に、宍粟の産品を活用した「食」の観光資源化に向けた研究開発を図るため、次の事業を行う。

(1) 特産品開発事業

事業名	事業内容	事業計画	備考
食のブランド化推進事業	宍粟の産品を活用した魅力ある特産メニューを研究開発し来訪者の増加を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・地元食材を活用したメニューのPR ・発酵のまちづくり推進協議会で開発したメニューのPR(甘酒) ・ブランド認証品の販売ルートの構築 	

4 観光地域づくりを担う人材育成に関する事業

宍粟の魅力を再発見することにより、地域に対する誇りや愛着心を醸成するとともに、そうした地域資源の活用方法等を研修することにより、新しい地域づくりの担い手を育成するため、次の事業を行う。

(1) 人材育成のための研修事業

事業名	事業内容	事業計画	備考
観光地域づくり事業	事業者や市民、行政など多様な主体が協力して進める観光地域づくりを進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと宍粟観光プラットフォーム運営委員会の開催 ① 運営委員会 3回 ② 部会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・アウトドア部会の継続開催 ・新たな部会の設置 ※別紙資料参照 ・モニターツアーの実施 中小旅行会社を対象にモニターツアーを実施し、魅力ある滞在プログラムを造成 ・ペットツーリズム等観光客のニーズを踏まえた取り組みの検討 ・歴史的資源を活用した観光地域づくりの検討 	

5 公的施設の管理運営事業

事業の目的に合った公的施設の管理運営を受託し、その施設を活用し多様な体験を促すため、次の事業を行う。

(1) 兵庫県立国見の森公園の管理運営事業（現協定期間 令和6年度～令和8年度）

事業名	事業内容	事業計画	備考
施設の管理事業	公園施設の適正な管理を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 施設の管理 ミニモノレールの管理 園地の管理 	
体験プログラム事業	人と自然が共生する豊かな森づくりを推進するため、活動スタッフの参画と協働によるプログラム活動を実施することにより、森林の保全と創造を進め、県民に自然とのふれあいの場・人と人との交流の場を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> プログラム活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> 一般プログラム <ul style="list-style-type: none"> 回数 年間 80 回程度 定員 プログラムの内容による 特別プログラム <ul style="list-style-type: none"> 回数 年間 4 回程度 定員 プログラムの内容による 学校・団体プログラムの実施 里山林の整備 <ul style="list-style-type: none"> 花の谷、教科書の森、企業の森 	

II 収益事業会計等

1 収益事業会計

事業名	事業内容	事業計画	備考
土地の賃貸借	基本財産として保有している土地を賃借し、その運用を図る。	所有する土地（873.24 m ² ）の賃貸借所在地及び面積 山崎町今宿字前田 19-31 150.24 m ² 21-1 307.00 m ² 22-3 416.00 m ² ※28 区画の駐車場として、宍粟警察署マイカークラブと契約	

2 その他事業会計

他1 観光地域づくり支援事業

観光を通じた地域づくりを推進するためには、観光関係者のみならず、地域住民も含めた幅広い関係者が連携し魅力ある地域づくりを実践していくため、観光地域づくりに取り組む団体等を支援する。

(1) 自然とのふれあい事業

事業名	事業内容	事業計画	備考
やまたびエクスプレス	県下最高峰氷ノ山等宍粟 50 名山を観光資源として活用するため、都市部からの登山バスの運行を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> 氷ノ山ツアーバスの運行 <ul style="list-style-type: none"> 時期 9～10 月 内容 姫路発の宍粟ルートを利用した氷ノ山バスツアー 	
宍粟 50 名山ファンクラブ事業	宍粟 50 名山愛好者のために、登山会等の情報提供や会員相互の交流を行うファンクラブを設置する。	<ul style="list-style-type: none"> 登山ツアー等の情報提供 ファンクラブの集いの開催 <ul style="list-style-type: none"> 回数 年 2 回 5 月 10 月 定員 各回 50 名 ※縦走ルートなど予定 	

(2) 観光資源活用事業

事業名	事業内容	事業計画	備考
観光協会賛助会員事業	地域資源を活用して実施するイベントに対して支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・会員向けイベントに対する助成対象事業費の 1/2【上限 100,000 円】 ・イベントの開催 時期 通年 場所 市内各地 内容 賛助会員を出展対象にした宍粟市PRイベントの開催他 ※観光シーズンに向けた宍粟市及びブランド認証品のPR等	

(3) 田舎暮らし支援事業

事業名	事業内容	事業計画	備考
地域おこし協力隊事業	都市住民など地域外の人材を地域社会の新たな担い手として受け入れ、地域おこし協力隊として地域力の維持・強化を図る。	地域おこし協力隊の活動支援 <ul style="list-style-type: none"> ・観光振興支援 ① アウトドア活動推進担当 広瀬 和磨 (令和5年度から) 	

(4) 人材育成のための研修事業

事業名	事業内容	事業計画	備考
観光案内人育成事業	観光案内を目的に結成されたボランティア団体を支援し、活動の充実を図るとともに新たな人材の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・やまさきまち歩きガイドの会支援 ・たたらの里ちくさガイドの会支援 	

(5) サイクルツーリズム事業

事業名	事業内容	事業計画	備考
サイクルツーリズム事業	宍粟市の豊かな自然を感じていただくとともに、新たな観光促進事業としてサイクルツーリズムを推進し、活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・レンタサイクル事業 E-BIKE (電動アシスト機能付マウンテンバイク) のレンタル 35 台 市内 4 施設で実施 国見の森公園 5 台 フォレストステーション波賀 5 台 くるみの里 5 台 ちくさ高原 5 台 森の案内所 15 台 計 35 台 	
地域活力増進事業	サイクリストに優しいまちとして、サイクリングを通じた観光PR「シノイチ」の企画・運営を行ない、市内観光施設の活性化を図る。更にコースの延伸や縦走コースを考案する。(令和6年から3年間) また、特産品開発にもとりかかるとする。	1年目 「シノイチ」企画・運営/試食品開発 2年目 「シノイチ+ (プラス)」 拡充 3年目 瀬戸内⇄日本海、ライダーズカフェ	主催： 宍粟市 商工会

III 法人会計

事業名	事業内容	事業計画	備考
協会の運営	協会の適正かつ円滑な運営を図る。また、関係団体等と連携を図り円滑な事業推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・評議員会の開催 ・理事会の開催 ・諸会議の開催 ・関係団体との連携会議 	

令和7年度

収 支 予 算 書

公益財団法人しそう森林王国観光協会

収 支 予 算 書 (損益ベース)

令和 7年 4月 1日から令和 8年 3月31日まで

科 目	予算額	前年度予算額	増減	備考
I 一般正味財産増減				
1 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	1,083,000	1,083,000	0	
受取利息	75,000	75,000	0	
受取賃借料	1,008,000	1,008,000	0	
事業収益	3,404,000	4,209,000	△ 805,000	
参加費収益	2,990,000	3,759,000	△ 769,000	
商品売上収益	414,000	450,000	△ 36,000	
受取補助金等	80,853,000	74,865,000	5,988,000	
受取市補助金	33,577,000	34,566,000	△ 989,000	
受取その他補助金	200,000	0	200,000	
受取県受託金	38,256,000	31,946,000	6,310,000	
受取市受託金	8,820,000	8,353,000	467,000	
受取負担金	1,327,000	1,219,000	108,000	
受取市負担金	1,145,000	1,145,000	0	
受取その他負担金	182,000	74,000	108,000	
受取賛助会費	630,000	999,000	△ 369,000	
受取賛助会費	630,000	999,000	△ 369,000	
雑収入	2,000	2,000	0	
受取利息	1,000	1,000	0	
雑収入	1,000	1,000	0	
経常収益計	87,299,000	82,377,000	4,922,000	
(2) 経常費用				
事業費	71,014,000	66,580,000	4,434,000	
給料手当	26,497,000	24,600,000	1,897,000	
臨時雇賃金	320,000	320,000	0	
福利厚生費	4,260,000	4,090,000	170,000	
旅費交通費	549,000	413,000	136,000	
通信運搬費	603,000	678,000	△ 75,000	
消耗什器備品費	260,000	310,000	△ 50,000	
消耗品費	3,293,000	2,607,000	686,000	
修繕費	5,741,000	4,212,000	1,529,000	
印刷製本費	1,382,000	1,641,000	△ 259,000	
燃料費	835,000	1,077,000	△ 242,000	
食糧費	50,000	50,000	0	
光熱水費	2,200,000	1,985,000	215,000	
賃借料	1,285,000	1,163,000	122,000	
保険料	1,235,000	1,294,000	△ 59,000	
諸謝金	1,015,000	899,000	116,000	
広告宣伝費	2,250,000	3,635,000	△ 1,385,000	
租税公課	1,571,000	159,000	1,412,000	

収 支 予 算 書 (損益ベース)

令和 7年 4月 1日から令和 8年 3月31日まで

科 目	予算額	前年度予算額	増減	備考
手数料	428,000	497,000	△ 69,000	
負担金	808,000	1,329,000	△ 521,000	
委託費	10,386,000	9,345,000	1,041,000	
助成金	5,966,000	6,246,000	△ 280,000	
雑費	80,000	30,000	50,000	
管理費	16,285,000	15,797,000	488,000	
役員報酬	4,847,000	4,847,000	0	
給料手当	7,081,000	7,321,000	△ 240,000	
福利厚生費	1,792,000	1,139,000	653,000	
旅費交通費	324,000	324,000	0	
会議費	11,000	11,000	0	
通信運搬費	48,000	48,000	0	
消耗品費	38,000	38,000	0	
修繕費	10,000	10,000	0	
燃料費	180,000	180,000	0	
光熱水料費	792,000	792,000	0	
賃借料	456,000	456,000	0	
保険料	29,000	29,000	0	
租税公課	85,000	10,000	75,000	
手数料	100,000	100,000	0	
負担金	227,000	227,000	0	
委託費	265,000	265,000	0	
経常費用計	87,299,000	82,377,000	4,922,000	
評価損益等調整前当期経常増加額	0	0	0	
基本財産評価損益等	0	0	0	
特定資産評価損益等	0	0	0	
投資有価証券評価損益等	0	0	0	
評価損益等計	0	0	0	
当期経常増減額	0	0	0	
2 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益	0	0	0	
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
過年度役員退任慰労費用	0	0	0	
過年度職員退職給付費用	0	0	0	
経常外費用	0	0	0	
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
他会計振替額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	0	0	0	

報告第10号

公益財団法人宍粟市文化振興財団令和6年度決算書及び令和7年度事業計画書等の提出について

地方自治法（昭和22年法律第67号）第243条の3第2項及び地方自治法施行令（昭和22年政令第16号）第173条の5第1項の規定により、公益財団法人宍粟市文化振興財団の令和6年度決算書及び令和7年度事業計画書等を提出する。

令和7年8月29日提出

宍粟市長 福元晶三

令和6年度

事業報告書

(公財)宍粟市文化振興財団

令和6年度事業報告

※事業の概要

新型コロナウイルス感染症がようやく収束の気配が見え、日常生活にも落ち着きを取り戻しつつあります。しかし、コロナの期間中に市民の文化に対する意識も大きく変化し、また日常生活においてもリモート化・オンライン化が進みました。

今年度においては、ソーシャルメディア等を活用し減少した利用者を取り戻すため市民により多くの情報を発信し利用を促すとともに、市民に喜んでいただける本物の芸術・文化活動に触れる場、創造の場を提供・啓発・普及する場を提供し、市民一人一人が気軽に参加し、交流・実践出来る場づくりの実現に向け努めた。

※事業の内容

1. 第43回春の芸能祭

(宍粟市山崎文化協会と共催)

2. ミニ・ギャラリーの開催

① 山楽会展

(1) とき 令和6年4月12日～令和6年4月14日

(2) 内容 山楽会会員による書道の展示 4点

② 第13回 グループMAD

(1) とき 令和6年4月23日～令和6年5月5日

(2) 内容 絵画(洋画・日本画) 愛好家による作品展 18点

③ 利舟会九歩展

(1) とき 令和6年5月7日～令和6年5月19日

(2) 内容 書道愛好家による作品展 43点

④ 絵画教室作品展

(1) とき 令和6年7月3日～7月24日

(2) 内容 当館主催の絵画教室の生徒の作品展 25点

⑤ ぼちぼちのんびり 米田桂子作品展

(1) とき 令和6年10月5日～10月12日

(2) 内容 押し花愛好家による作品展 40点

⑥ 大山書道会展

(1) とき 令和6年10月13日～10月27日

(2) 内容 書道愛好家による作品展 31点

⑦ 第20回 クラブ・ピカソ展

(1) とき 令和6年11月12日～11月24日

(2) 内容 クラブ・ピカソ会員による絵画作品展 25点

⑧ クリスマスツリー展示作品展

(1) とき 令和6年12月5日～12月27日

(2) 内容 手作りクリスマスオーナメント作品展 53点

⑨ 宍粟美術協会部別展覧会

(1) とき 令和7年1月18日～3月30日

(2) 内容 洋画・日本画・写真・書・工芸等の部門別作品展 121点

3. 文化講座の開催

- ① 絵画教室 毎月第1・第3水曜日
- ② 和太鼓自主教室 毎週火・水・木曜日（月4回）
- ③ 篠笛教室 毎月第1・第3木曜日、毎月第2・第4木曜日
- ④ ウクレレ教室 毎月第1・第3金曜日
- ⑤ 話し方教室 7月～12月 第1金曜日（全6回）

4. 文化情報の提供

地域住民に文化情報を提供し、芸能文化の理解と関心を高め、文化活動への参加を促すため、会館ニュースを年6回（各16,500部）発行し、市内全戸配布、近隣施設・文化団体への送付等によりPR、宍粟市シーたん放送・新聞社等メディアに記事、また、SNS（ソーシャルメディア インスタグラム・X等）で事業の集客に努めた。

また、館内にポスター掲示スペースやチラシ立てを増やし、来館者に宍粟市以外の文化情報の提供に努めた。

5. 文化振興事業の開催

（別表 文化振興事業開催結果一覧表）

6. 受託事業

- (1) 秋のふれあい文化祭

7. ボランティアの活動

- (1) ホールサポートスタッフ（14名）

職員数が絶対的に足りないため、事業開催時には欠かせない存在になっている。

舞台運営（企画）・客席案内・もぎり・アナウンス等裏方として、ホールの催しを支えていただいている。

8. 施設の利用状況

会館利用については利用料金・利用率・利用人数ともに新型コロナウイルスの影響により、かなり落ち込んでいたが、漸く少しずつではあるが、利用料・利用率・利用人数が向上してきている。しかし、4月より会館利用料の値上げにより少し回復傾向が緩やかな状態である。

多くの市民にご利用いただけるよう、より一層職員一同効率的な運営、きめ細やかなサービス向上に努めたい。

（会館利用料金・利用率・利用人数については、別紙記載）

9. 施設業務管理について

会館の施設管理については、専門技術を要するため衛生・清掃・電気・舞台（照明・音響・吊物・ピアノ）・地下タンク・建築設備等について、専門業者との委託契約により利用者の安全と効率的な運営に努めた。

（委託業務については、別紙記載）

令和6年度文化振興事業開催結果

(単位:円)

NO	開催日	事業名	入場料等	収入	支出	差異	入場券売上数等	備考
1	4月7日 (日)	(住民企画事業) 第15回森の国オカリナフェスティバル	参加料(ソロ) 4,000円 (アンサンブル) 2,500円 入場料 1,000円	735,700	995,195	△ 259,495	419人(出演者含む)	
2	5月12日 (日)	映画「こんにちは、母さん」(3回)	大人 800円 高校生以下500円	300,700	472,899	△ 172,199	466人	
3	5月19日 (日)	第43回春の芸能祭	参加料5,000円 舞台運営委託料2000円	220,000	300,485	△ 80,485	148人(出演者含む)	宍粟市山崎文化協会共催
4	6月9日 (日)	(住民企画事業) ハリマハワイアンフェスティバル2024	参加料 1,500円	618,000	862,000	△ 244,000	800人(出演者含む)	
5	7月4日・7月5日	人形劇団ブーク「エルマーとりゅう」(2回)	入場料500円 ワークショップ1,000円	251,600	981,741	△ 730,141	493人	
6	7月11日 (木)	宍粟市やまさき文化大学映画鑑賞講座「ふたたびSWING ME AGAIN」	団体鑑賞	180,000	165,000	15,000	159人	宍粟市やまさき文化大学団体鑑賞
7	7月14日 (日)	大阪桐蔭高等学校吹奏楽部コンサート(2回)	大人 2,000円 高校生以下1,000円	1,914,900	1,420,992	493,908	1,117人	
8	8月3日 (土)	宍粟市出身アーティスト支援事業「ほのカルテット・リサイタル」	2,000円	1,021,000	1,124,336	△ 103,336	513人	
9	8月25日 (日)	嘶家生活30周年桂吉弥独演会	2,000円	895,380	809,250	86,130	469人	
10	9月15日 (日)	宝くじ文化公演「渡辺美里と京フィルコンサート」	大人 2,500円 高校生以下1,500円	1,537,900	1,036,201	501,699	630人	
11	10月5日 (土)	しそバンドフェスタ2024	無料	0	115,211	△ 115,211	460人(出演者含む)	宍粟市吹奏楽連盟共催
		小学校訪問ふれあいコンサート(フルート・ピアノ・ギター)		680,000	1,101,680	△ 421,680		(一財)にしん地域振興財団補助金 500000円
12	10月15日 (火)	小学校訪問ふれあいコンサート(一宮北小学校)2回公演	無料				75人	
13	10月16日 (水)	小学校訪問ふれあいコンサート(波賀小学校)2回公演	無料				80人	
14	10月17日 (木)	小学校訪問ふれあいコンサート(千種小学校)2回公演	無料				75人	
15	10月18日 (金)	小学校訪問ふれあいコンサート(はりま一宮学校)3回公演	無料				185人	
16	11月13日 (水)	小学校訪問ふれあいコンサート(山崎西小学校)公演	無料				64人	
17	11月13日 (水)	はりま自立の家・訪問コンサート	無料				50人	無償ボランティア公演
18	11月14日 (木)	小学校訪問ふれあいコンサート(戸原小学校)	無料				39人	
19	11月14日 (木)	宍粟市やまさき文化大学音学鑑賞講座					120人	文化大学鑑賞費用 180000円
20	10月26日 (土)	宍粟市出身アーティスト支援事業「邦寿一人ライブ」	2,500円 (当日3,000円)	219,000	330,554	△ 111,554	87人	ホール舞台上
21	10月27日 (日)	ベーゼンドルファーを弾いてみよう	1時間2,000円	10,000	37,101	△ 27,101	5枠21人	
22	12月22日 (日)	第3回山崎文化会館篠笛教室発表会	無料	0	10,811	△ 10,811	45人	研修室
23	2月2日 (日)	市民・友の会招待映画「九十歳。何がめでたい」(3回)	無料	0	510,711	△ 510,711	945人	宍粟市民・友の会招待
24	2月16日 (日)	住民企画事業「第15回宍粟和太鼓フェスティバル」	参加料大人:4,500円 中学生以下:3,000円	319,500	486,423	△ 166,923	646人(参加者含む)	
25	3月2日 (日)	第30回しそりの森合唱祭	参加料1団体 2,000円	38,000	148,188	△ 110,188	300人(参加者含む)	
26	3月9日 (日)	宍粟市出身アーティスト支援事業「篠笛ライブ～現代に響く和の音色～」	500円	38,300	66,830	△ 28,530	84人	研修室
27	①6/8②11/16 ③3/22	管楽器打楽器合同講習会	無料	0	384,710	△ 384,710	240人	市内中学校吹奏楽部対象、宍粟市吹奏楽団と共催
28	11月10日 (日)	クリスマスオーナメント作成教室	材料/300円	9,600	17,204	△ 7,604	32人参加	

29	5月～12月(全8回)	話し方教室	1,000円(1回)	131,000	127,200	3,800	延べ131人
30	第1・3水曜日	絵画教室	月謝 2,000円	308,000	319,200	△ 11,200	月平均12人受講
31	毎週火・水・木曜日	和太鼓教室(9教室)	月謝 5,500円 4,000円	5,436,400	5,299,600	136,800	月平均79人受講
32	毎週木曜日	篠笛教室(4教室)	月謝 3,000円	714,230	701,700	12,530	月平均17人受講
33	第1・第3金曜日	ウクレレ教室(2教室)	月謝 2,000円	180,000	152,000	28,000	月平均7人受講
34		友の会	会費 1,000円	342,000	3,022	338,978	会員数342人
自主事業合計				16,101,210	17,980,244	△ 1,879,034	
その他事業関連収支				210,000	9,702,983	△ 9,492,983	
				16,311,210	27,683,227	△ 11,372,017	

施設業務管理契約

業 務 名	業 務 内 容	点検回数
舞台ピアノ保守点検	オーバーホール(分解・清掃)し、調律・整音	年1回
冷暖房用吸収式冷温水機保守点検	冷暖房の切替及び中間期の点検	年4回
舞台調光装置保守点検	照明卓及び照明コンセントの電圧・電流検査	年1回
舞台吊物保守点検	舞台上部吊物のワイヤーの亀裂、劣化及び綱元点検	年6回
機械防犯警備	夜間(閉館時)センサーによる建物内機械警備	毎日
舞台操作委託契約	ホール使用時の舞台・音響・照明操作及び使用打合せ	年120回
清掃業務委託契約	敷地及び建物内清掃	開館指定日
ビル衛生管理業務委託契約	空気環境測定・害虫駆除・貯水槽清掃・飲料水検査他	年10回
特殊建築物定期点検	建築・設備の定期点検	年1回
地下タンク定期点検	冷暖房用灯油地下タンクの漏洩検査	年1回
消防設備等点検契約	消防設備の定期点検	年2回
ワックス・高所ガラス清掃契約	ワックス(2ヶ月1回)、高所ガラス(年1回)	年7回
自家用電気工作物定期点検	自家発及びキュービクル定期点検及び年次点検	年12回
夜間管理契約	夜間使用時の管理契約	夜間使用日
エレベーター保守点検契約	エレベーターの定期点検及びリモート点検(毎日)	年4回

令和6年度

収 支 決 算 書

(公財) 宍粟市文化振興財団

大科目		当初予算額	補正額	流用額	最新予算額	累計	公益1	収益1	法人	残額
基本財産運用収益		30,000	0	0	30,000	31,057	0	0	31,057	△ 1,057
	基本財産受取利息	30,000	0	0	30,000	31,057	0	0	31,057	△ 1,057
事業収益		67,489,000	2,324,000	0	69,813,000	70,728,701	60,015,115	5,363,586	5,350,000	△ 915,701
	自主事業収益	13,309,000	2,324,000	0	15,633,000	16,101,210	15,424,950	676,260	0	△ 468,210
	広告料収益	180,000	0	0	180,000	210,000		210,000	0	△ 30,000
	受託事業収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	指定管理収益	33,400,000	0	0	33,400,000	33,400,000	28,050,000	0	5,350,000	0
	自主事業委託収益	11,900,000	0	0	11,900,000	11,900,000	11,900,000	0		0
	会館使用料収益	8,700,000	0	0	8,700,000	9,117,491	4,640,165	4,477,326	0	△ 417,491
退職給与引当金		0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退職給与引当金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金		0	0	0	0	0	0	0	0	0
	受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雑収益		257,000	0	0	257,000	273,240	0	273,240	0	△ 16,240
	受取利息	7,000	0	0	7,000	4,878	0	4,878	0	2,122
	雑収益	250,000	0	0	250,000	268,362	0	268,362	0	△ 18,362
収入合計		67,776,000	2,324,000	0	70,100,000	71,032,998	60,015,115	5,636,826	5,381,057	△ 932,998

大科目		現行予算額	補正額	流用額	最新予算額	累計	公益1	収益1	法人	残額
一般管理費		150,000	0	0	150,000	90,391	0	0	90,391	59,609
	旅費交通費	130,000	0	0	130,000	87,740	0	0	87,740	42,260
	福利厚生費	15,000	0	0	15,000	0	0	0	0	15,000
	会議費	5,000	0	0	5,000	2,651	0	0	2,651	2,349
管理運営事業費		42,707,000	2,866,000	500,000	46,073,000	45,249,639	37,291,228	3,373,788	4,584,623	823,361
	給料手当	13,872,000	0	370,000	14,242,000	14,241,045	12,104,888	712,052	1,424,105	955
	臨時雇賃金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退職給付費用	120,000	0	0	120,000	120,000	102,000	6,000	12,000	0
	退職給付費用当期繰越額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退職金支出	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	福利厚生費	2,352,000	0	116,000	2,468,000	2,464,262	2,094,623	123,213	246,426	3,738
	会議費	1,000	0	0	1,000	0	0	0	0	1,000
	旅費交通費	17,000	0	0	17,000	0	0	0	0	17,000
	通信運搬費	196,000	0	0	196,000	164,602	82,301	8,230	74,071	31,398
	減価償却費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	消耗什器備品費	0	700,000	0	700,000	684,500	342,250	34,225	308,025	15,500
	消耗品費	376,000	111,000	0	487,000	472,118	236,059	23,606	212,453	14,882
	修繕費	400,000	2,000,000	499,000	2,899,000	2,881,010	2,348,023	244,886	288,101	17,990
	印刷製本費	41,000	0	0	41,000	19,310	9,655	965	8,690	21,690
	燃料費	2,871,000	0	0	2,871,000	2,760,594	2,249,884	234,651	276,059	110,406
	光熱水料費	6,937,000	0	△ 710,000	6,227,000	5,895,581	4,804,899	501,124	589,558	331,419
	賃借料	588,000	0	0	588,000	586,876	293,438	29,344	264,094	1,124
	保険料(車)	33,000	0	0	33,000	32,300	16,150	1,615	14,535	700
	保険料(その他)	102,000	0	1,000	103,000	102,289	83,366	8,695	10,228	711
	諸謝金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	租税公課費(車)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	租税公課費(消費税等)	1,679,000	0	224,000	1,903,000	1,902,100	1,470,423	254,784	176,893	900
	支払手数料(車)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	支払手数料(その他)	114,000	55,000	0	169,000	166,881	136,008	14,185	16,688	2,119
	支払負担金	62,000	0	0	62,000	59,000	48,085	5,015	5,900	3,000
	委託費(事業)	6,130,000	0	0	6,130,000	6,129,200	5,516,280	612,920	0	800
	委託費(その他)	6,816,000	0	0	6,816,000	6,567,971	5,352,896	558,278	656,797	248,029

自主事業費		25,419,000	2,324,000	0	27,743,000	27,683,227	26,111,434	1,162,222	409,571	59,773
	給料手当	3,206,000	0	0	3,206,000	3,186,417	2,708,454	159,321	318,642	19,583
	臨時雇賃金	2,534,000	485,000	327,000	3,346,000	3,345,576	3,345,576			424
	退職金支出	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	福利厚生費	834,000	32,000	47,000	913,000	909,295	772,901	45,465	90,929	3,705
	会議費	48,000	0	0	48,000	47,511	47,511			489
	旅費交通費	65,000	0	△ 42,000	23,000	14,524	14,524			8,476
	通信運搬費	248,000	0	△ 43,000	205,000	194,120	194,120			10,880
	消耗品費	90,000	0	10,000	100,000	98,251	98,251	0		1,749
	印刷製本費	1,374,000	0	18,000	1,392,000	1,391,960	1,113,568	278,392		40
	賃借料	2,750,000	0	△ 300,000	2,450,000	2,436,579	2,339,513	97,066		13,421
	諸謝金	4,106,000	1,427,000	20,000	5,553,000	5,552,300	4,988,300	564,000		700
	租税公課費	505,000	0	△ 106,000	399,000	399,000	399,000			0
	支払手数料	127,000	0	△ 37,000	90,000	89,889	71,911	17,978		111
	委託費	9,532,000	380,000	106,000	10,018,000	10,017,805	10,017,805			195
予備費		0	500,000	△ 500,000	0	0	0	0	0	0
	予備費	0	500,000	△ 500,000	0	0	0	0	0	0
支出合計		68,276,000	5,690,000	0	73,966,000	73,023,257	63,402,662	4,536,010	5,084,585	942,743

前期繰越収支差額		0	3,866,000	0	3,866,000	3,866,910	3,866,910	0	0	△ 910
	前期繰越収支差額	0	3,866,000	0	3,866,000	3,866,910	3,866,910	0	0	△ 910

正味財産増減計算書
令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

(単位:円)

	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益			
基本財産運用収益	31,057	30,848	209
特定資産運用益			
特定資産受取利息			
事業収入			
自主事業収益	16,101,210	7,959,470	8,141,740
広告料収益	210,000	220,000	△ 10,000
受託事業収益			0
指定管理料収益	33,400,000	34,883,000	△ 1,483,000
自主事業助成金	11,900,000	10,617,000	1,283,000
会館使用料収益	9,117,491	8,291,268	826,223
受取寄付金			
受取寄付金			
雑収益			
受取利息	4,878	2,218	2,660
雑収益	268,362	267,453	909
経常収益計	71,032,998	62,271,257	8,761,741
(2) 経常費用			
事業費	67,866,672	55,782,754	12,083,918
給料手当	15,684,715	15,017,486	667,229
臨時雇賃金	3,345,576	2,188,613	1,156,963
退職給付費用	108,000	108,000	0
退職給付費用当期繰越額	0	0	0
福利厚生費	3,036,202	2,799,382	236,820
会議費	47,511	39,390	8,121
旅費交通費	14,524	91,810	△ 77,286
通信運搬費	284,651	337,605	△ 52,954
減価償却費	0	0	0
消耗品什器備品費	376,475	0	376,475
消耗品費	357,916	277,415	80,501
修繕費	2,592,909	1,097,761	1,495,148
印刷製本費	1,402,580	1,446,912	△ 44,332
燃料費	2,484,535	2,356,941	127,594
光熱水料費	5,306,023	5,418,253	△ 112,230
賃借料	2,759,361	2,590,795	168,566
保険料(車)	17,765	17,820	△ 55
保険料(その他)	92,061	89,492	2,569
諸謝金	5,552,300	1,050,400	4,501,900
租税公課(車)	0	0	0
租税公課(消費税等)	2,052,207	1,866,235	185,972
支払手数料(車)	0	0	0
支払手数料(その他)	240,082	196,069	44,013
支払負担金	53,100	62,100	△ 9,000
委託費(事業)	16,147,005	12,715,896	3,431,109
委託費(その他)	5,911,174	6,014,379	△ 103,205
管理費	5,084,585	4,497,557	587,028
役員報酬			0
給料手当	1,742,747	1,668,609	74,138
臨時雇賃金	0	0	0
退職手当給付費用	12,000	12,000	0
退職給与引当金当期繰越額	0	0	0
福利厚生費	337,355	311,042	26,313
会議費	2,651	4,854	△ 2,203
旅費交通費	87,740	91,180	△ 3,440
通信運搬費	74,071	80,693	△ 6,622
原価償却費	0	0	0
消耗什器備品費	308,025	0	308,025
消耗品費	212,453	157,028	55,425

修繕費	288,101	121,973	166,128
印刷製本費	8,690	13,517	△ 4,827
燃料費	276,059	261,882	14,177
光熱水料費	589,558	602,028	△ 12,470
賃借料	264,094	275,918	△ 11,824
保険料(車)	14,535	14,580	△ 45
保険料(その他)	10,228	9,944	284
諸謝金	0	0	0
租税公課費(車)	0	0	0
租税公課費(消費税等)	176,893	186,865	△ 9,972
支払手数料(車)	0	0	0
支払手数料(その他)	16,688	10,280	6,408
支払負担金	5,900	6,900	△ 1,000
委託費(事業)	0	0	0
委託費(その他)	656,797	668,264	△ 11,467
経常費用計	72,951,257	60,280,311	12,670,946
当期経常増減額	△ 1,918,259	1,990,946	△ 3,909,205
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
受取寄付金	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
退職給与	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0		
他会計振替額	0		
税引前一般正味財産増減額	△ 1,918,259	1,990,946	
法人税等	72,000	72,000	0
当期一般正味財産増減額	△ 1,990,259	1,918,946	△ 3,909,205
一般正味財産期首残高	3,916,910	1,997,964	1,918,946
一般正味財産期末残高	1,926,651	3,916,910	△ 1,990,259
II 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	0	43,891	△ 43,891
当期指定正味財産増減額	0	△ 43,891	43,891
指定正味財産期首残高	73,448,500	73,448,500	0
指定正味財産期末残高	73,448,500	73,448,500	0
III 正味財産期末残高	75,375,151	77,365,410	△ 1,990,259

正味財産増減計算書内訳表
令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

(単位:円)

	公益目的 事業会計	収益事業会計	法人会計	内部取 引消去	合計
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益			31,057		31,057
基本財産受取利息			31,057		31,057
事業収入	60,015,115	5,363,586	5,350,000		70,728,701
自主事業収入	15,424,950	676,260	0		16,101,210
広告料収入	0	210,000	0		210,000
受託事業収入	0	0	0		0
指定管理料収入	28,050,000	0	5,350,000		33,400,000
自主事業助成金	11,900,000	0	0		11,900,000
文化会館使用料収入	4,640,165	4,477,326	0		9,117,491
受取寄付金	0	0	0		0
受取寄付金	0	0	0		0
雑収益	0	273,240	0		273,240
受取利息	0	4,878	0		4,878
雑収入	0	268,362	0		268,362
経常収益計	60,015,115	5,636,826	5,381,057		71,032,998
(2) 経常費用					
事業費	63,402,662	4,464,010	0		67,866,672
給料手当	14,813,342	871,373			15,684,715
臨時雇賃金	3,345,576	0			3,345,576
退職給付費用	102,000	6,000			108,000
退職給与引当金繰入額	0	0			0
福利厚生費	2,867,524	168,678			3,036,202
会議費	47,511	0			47,511
旅費交通費	14,524	0			14,524
通信運搬費	276,421	8,230			284,651
減価償却費	0	0			0
消耗什器備品費	342,250	34,225			376,475
消耗品費	334,310	23,606			357,916
修繕費	2,348,023	244,886			2,592,909
印刷製本費	1,123,223	279,357			1,402,580
燃料費	2,249,884	234,651			2,484,535
光熱水料費	4,804,899	501,124			5,306,023
賃借料	2,632,951	126,410			2,759,361
保険料(車)	16,150	1,615			17,765
保険料(その他)	83,366	8,695			92,061
諸謝金	4,988,300	564,000			5,552,300
租税公課(車)	0	0			0
租税公課(消費税等)	1,869,423	182,784			2,052,207
支払手数料(車)	0	0			0
支払手数料(その他)	207,919	32,163			240,082
支払負担金	48,085	5,015			53,100
委託費(事業)	15,534,085	612,920			16,147,005
委託費(その他)	5,352,896	558,278			5,911,174
管理費			5,084,585		5,084,585
役員報酬					0
給料手当			1,742,747		1,742,747
臨時雇賃金			0		0
退職給付費用			12,000		12,000
退職給与引当金繰入額			0		0
福利厚生費			337,355		337,355
会議費			2,651		2,651
旅費交通費			87,740		87,740
通信運搬費			74,071		74,071
減価償却費			0		0
消耗什器備品費			308,025		308,025
消耗品費			212,453		212,453
修繕費			288,101		288,101
印刷製本費			8,690		8,690

燃料費			276,059		276,059
光熱水道費			589,558		589,558
賃借料			264,094		264,094
保険料(車)			14,535		14,535
保険料(その他)			10,228		10,228
諸謝金			0		0
租税公課(車)			0		0
租税公課(消費税等)			176,893		176,893
支払手数料(車)			0		0
支払手数料(その他)			16,688		16,688
支払負担金			5,900		5,900
委託費(事業)			0		0
委託費(その他)			656,797		656,797
経常費用計	63,402,662	4,464,010	5,084,585		72,951,257
評価損益等調整前当期	△ 3,387,547	1,172,816	296,472		△ 1,918,259
当期経常増減額	△ 3,387,547	1,172,816	296,472		△ 1,918,259
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
受取寄付金	0	0	0		0
経常外収益計	0				0
(2) 経常外費用					
退職給与	0	0	0		0
経常外費用計	0	0	0		0
当期経常外増減額	0	0	0		0
他会計振替額	419,186	△ 419,186			0
税引前一般正味財産増減額	△ 2,968,361	753,630	296,472		△ 1,918,259
法人税等		72,000			72,000
当期一般正味財産増減額	△ 2,968,361	681,630	296,472		△ 1,990,259
一般正味財産期首残高	5,907,109	1,518,201	△ 3,508,400		3,916,910
一般正味財産期末残高	2,938,748	2,199,831	△ 3,211,928		1,926,651
II 指定正味財産増減の部					0
一般正味財産への振替額	0	0	0		0
当期指定正味財産増減額	0	0	0		0
指定正味財産期首残高	73,448,500	0	0		73,448,500
指定正味財産期末残高	73,448,500	0	0		73,448,500
III 正味財産期末残高	76,387,248	2,199,831	△ 3,211,928		75,375,151

貸借対照表

令和7年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	6,392,411	7,158,981	△ 766,570
未収入金	0	43,891	△ 43,891
前払金	0	0	0
貯蔵金		0	0
仮払金		0	0
流動資産合計	6,392,411	7,202,872	△ 810,461
2. 固定資産			
(1)基本財産			
基本財産引当預金	73,448,500	73,448,500	0
(2)特定資産			
退職給付引当資産	5,857,379	5,677,633	179,746
(3)その他固定資産			
出資金	50,000	50,000	0
固定資産合計	79,355,879	79,176,133	179,746
資産合計	85,748,290	86,379,005	△ 630,715
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,648,515	262,610	1,385,905
前受金	1,223,591	1,512,296	△ 288,705
預り金	334,654	487,856	△ 153,202
未払い消費税	1,237,000	1,001,200	235,800
未払い法人税	72,000	72,000	0
流動負債合計	4,515,760	3,335,962	1,179,798
2. 固定負債			
退職給与引当金	5,857,379	5,677,633	179,746
運営資金引当金	0	0	0
固定負債合計	5,857,379	5,677,633	179,746
負債合計	10,373,139	9,013,595	1,359,544
III 正味財産の部			
1. 基金		0	0
(うち基本財産への充当額)	()	()	
(うち特定財産への充当額)	()	(0)	0
2. 指定正味財産	73,448,500	73,448,500	0
(うち基本財産への充当額)	(73,448,500)	(73,448,500)	
(うち特定財産への充当額)	()	()	
3. 一般正味財産	1,926,651	3,916,910	△ 1,990,259
(うちその他固定財産への充当額)	(0)	()	
(うち特定財産への充当額)	(1,926,651)	(3,916,910)	
正味財産合計	75,375,151	77,365,410	△ 1,990,259
負債及び正味財産合計	85,748,290	86,379,005	△ 630,715

財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産については定額法で減価償却を行っています。

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

2 会計方針の変更

当期より、一般社団法人及び一般社団法人に関する法律並びに公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の関連する規定に基づく会計基準に変更した。

3 基本財産の増減額及びその残高

基本財産の増減額及びその残高は次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
固定資産				
基本財産	73,448,500			73,448,500
特定資産				
退職給付引当資産	5,677,633	179,746		5,857,379
その他の固定資産				
法人出資金	50,000	0	0	50,000
合 計	79,176,133	179,746	0	79,355,879

4 基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味 財産からの充 当額)	(うち一般正味 財産からの充 当額)	(うち負債に 対応する額)
固定資産				
基本財産	73,448,500	73,448,500	0	0
特定資産				
退職給付引当資産	5,857,379	0	0	5,857,379
その他の固定資産				
法人出資金	50,000	0	50,000	0
合 計	79,355,879	73,448,500	50,000	5,857,379

5 指定管理料等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は次のとおりである。

(単位:円)

名 称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の 掲載区分
指定管理料	宍粟市	0	33,400,000	33,400,000	0	
自主事業助成金	宍粟市	0	11,900,000	11,900,000	0	

6 担保に供している資産

該当なし

7 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

該当なし

8 保証債務等の偶発債務

該当なし

9 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳
該当なし

10 関連当事者との取引の内容
該当なし

11 重要な後発事象
該当なし

令和6年度山崎文化会館利用率

月 (開館日数)	使用場所	ホール	リハーサル室	研修室	会議室	和室	茶室	楽屋	特別会議室	利用者数合計
4月 (26)	使用回数	14	22	13	17	22	12	9	6	3,347
	使用率	53.8%	84.6%	50.0%	65.4%	84.6%	46.2%	34.6%	23.1%	
	利用者数	1,471	513	446	478	221	54	102	62	
5月 (27)	使用回数	17	20	9	12	19	7	11	7	3,281
	使用率	63.0%	74.1%	33.3%	44.4%	70.4%	25.9%	40.7%	25.9%	
	利用者数	1,912	469	300	182	194	28	125	71	
6月 (25)	使用回数	18	23	13	15	20	10	12	6	4,435
	使用率	72.0%	92.0%	52.0%	60.0%	80.0%	40.0%	48.0%	24.0%	
	利用者数	2,643	608	516	220	242	45	107	54	
7月 (27)	使用回数	20	20	10	17	18	7	10	7	5,018
	使用率	74.1%	74.1%	37.0%	63.0%	66.7%	25.9%	37.0%	25.9%	
	利用者数	3,220	573	530	235	242	34	116	68	
8月 (27)	使用回数	15	19	12	16	14	9	10	4	4,162
	使用率	55.6%	70.4%	44.4%	59.3%	51.9%	33.3%	37.0%	14.8%	
	利用者数	2,570	489	500	249	208	37	89	20	
9月 (25)	使用回数	19	20	14	19	19	7	12	9	7,063
	使用率	76.0%	80.0%	56.0%	76.0%	76.0%	28.0%	48.0%	36.0%	
	利用者数	3,537	656	1,436	910	248	23	156	97	
10月 (27)	使用回数	26	24	21	19	25	11	13	7	10,607
	使用率	96.3%	88.9%	77.8%	70.4%	92.6%	40.7%	48.1%	25.9%	
	利用者数	5,028	922	2,621	1,376	411	53	123	73	
11月 (26)	使用回数	22	24	23	18	24	17	15	13	7,425
	使用率	84.6%	92.3%	88.5%	69.2%	92.3%	65.4%	57.7%	50.0%	
	利用者数	3,721	498	1,660	718	553	66	129	80	
12月 (24)	使用回数	16	17	13	11	17	6	9	1	4,122
	使用率	66.7%	70.8%	54.2%	45.8%	70.8%	25.0%	37.5%	4.2%	
	利用者数	2,163	496	742	339	247	32	93	10	
1月 (24)	使用回数	20	17	8	10	17	7	10	5	3,717
	使用率	83.3%	70.8%	33.3%	41.7%	70.8%	29.2%	41.7%	20.8%	
	利用者数	2,267	390	365	177	282	35	134	67	
2月 (25)	使用回数	21	20	11	11	15	6	10	7	5,478
	使用率	84.0%	80.0%	44.0%	44.0%	60.0%	24.0%	40.0%	28.0%	
	利用者数	3,938	616	380	136	200	26	116	66	
3月 (26)	使用回数	21	21	12	14	19	8	13	4	4,248
	使用率	80.8%	80.8%	46.2%	53.8%	73.1%	30.8%	50.0%	15.4%	
	利用者数	2,153	718	510	322	308	34	161	42	

合計	使用回数	229	247	159	179	229	107	134	76	62,903
	使用人数	34,623	6,948	10,006	5,342	3,356	467	1,451	710	

収支決算書総括表

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

1. 収入の部

収入の部 74,899,908

科 目	一 般 会 計
基本財産運用益	31,057
事業収入	70,728,701
受取寄付金	0
雑収益	273,240
前期繰越収支差額	3,866,910
収入合計	74,899,908

支出の部 73,023,257

2. 支出の部

差引合計 1,876,651

科 目	一 般 会 計
一般管理費	90,391
管理運営事業費	45,249,639
自主事業費	27,683,227
予備費	0
支出合計	73,023,257

令和7年度

事業計画・収支予算書

(公財)宍粟市文化振興財団

令和7年度 公益財団法人宍粟市文化振興財団事業計画書

公益財団法人宍粟市文化振興財団は、宍粟市の文化拠点施設の管理運営、優れた文化芸術鑑賞の提供ならびに市民の自主的文化活動の育成・支援等を行います。

事業運営については、透明性を高め、より質の高い文化振興事業を展開し市民から信頼を得るとともに、一層喜んでいただける充実した事業展開を図ります。

令和7年度事業計画策定にあたりましては、市民の自主的な文化活動を育成・支援し、宍粟市の地域文化活動の一層の活性化を図るため、宍粟市が策定した社会教育振興計画と密接に連携し、当財団の果たすべき役割、公益法人として求められている社会的要請に応える事業を展開します。

基本理念

宍粟市における芸術文化の振興を図り、もって地域文化の創造に寄与する。

定款に定める事業（第4条関係）

- (1) 芸術文化鑑賞事業及び各種芸術講座の開催
- (2) 地域住民の文化活動の育成・援助
- (3) 芸術文化に関する情報の提供
- (4) 文化施設の管理運営の受託
- (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

事業内容

- 1 芸術文化鑑賞事業及び各種芸術講座の開催（第4条第1号関係）
市民に廉価で芸術性の高い舞台公演や講座を開催し、独自の文化の高揚と育成を図るように努めます。
- 2 地域住民の文化活動の育成・援助（第4条第2号関係）
 - (1) 文化教室・講座は新たな文化知識、創造力を養い住民主体の文化活動の育成を図り、芸術文化の振興に寄与するよう努めます。
 - (2) 宍粟市で活動する舞台芸術家の活動の機会・発表の場を設け、地域文化の普及・発展に努めます。
 - (3) 地域住民に身近で優れた芸術文化に触れる機会を低廉な料金で提供し、芸術文化の振興に貢献できるよう努めます。
- 3 芸術文化に関する情報の提供（第4条3号関係）
会館ニュースの全戸配布、事業開催時のチラシ配布、しーたん放送、新聞等メディアを利用し広く市民への情報提供に努めます。
- 4 文化施設の管理運営の受託（第4条4号関係）
文化施設の効率的な運営、きめ細やかなサービス、また専門業者との委託契約により利用者の安全と効率的な運営に努めます。

令和7年度事業計画書

公益財団法人宍粟市文化振興財団(山崎文化会館)

	開催日	事業名	備考
公益事業 講座・セミナー・育成事業	第1・3水曜日	絵画教室	
	毎週木曜日	篠笛教室(第1・3木曜中級・上級、第2・4木曜入門・スキルアップ)	4教室
	第1・3金曜日	ウクレレ教室	2教室
	和太鼓教室		
	毎週火曜日	和太鼓教室(親子・フィットネス・倭音)	3教室
	毎週水曜日	和太鼓教室(子ども中級・上級・弾紅)	3教室
	毎週木曜日	和太鼓教室(子ども初級・音羽・一般教室)	3教室
	5月～12月 全8回	話し方教室	1講座
	11月予定	クリスマスオーナメント作成講座	
	6月・11月・3月	管楽器打楽器合同講習会(3回)	宍粟市吹奏楽団と共催
体験活動等事業	6月12日(木)	宍粟市やまさき文化大学音楽鑑賞講座	
	10月5日(日)	ベーゼンドルファーを弾いてみよう	
	小学校訪問ふれあいコンサート(3小学校)		フルート・ピアノ・ギター
	11月4～7日 (3小学校10公演)	神野小学校・河東小学校・蔦沢小学校	にしん地域振興財団と共催
主催公演事業 (住民参加型)	5月18日(日)	第44回春の芸能祭	
	10月18日(土)	しそバンドフェスタ	
	3月1日(日)	第31回しそ森合唱祭	

(住民創造型)	4月6日(日)	第16回森の国オカリナフェスティバル	住民企画事業
	6月8日(日)	第14回ハリマハワイアンフェスティバル	住民企画事業
	日程調整中	宍粟和太鼓フェスティバル	住民企画事業
(鑑賞型)	6月22日(日)	映画「ROUTE29」	3回上映
	6月26日(木)・ 27日(金)	人形劇団プーク(団体鑑賞)	2回公演
	7月20日(日)	大阪桐蔭高等学校吹奏楽部コンサート	2回公演
	8月31日(日)	第18回桂吉弥独演会	
	9月28日(日)	映画「作品調整中」(宍粟市やまさき文化大学映画鑑賞講座含む)	3回上映
	10月26日(日)	ほのカルテット(弦楽四重奏)	宍粟市出身アーティスト支援事業(長田健志)
	日程調整中	映画1本予定	3回上映

令和7年度(公財)宍粟市文化振興財団予算総括表

収入の部

(単位:円)

大 科 目	当 初 予 算 額	前年度当初予算額	比 較	予 算 の 説 明
基本財産運用収益	146,000	30,000	116,000	
事 業 収 益	68,187,000	67,489,000	698,000	
受 取 寄 付 金	0	0	0	
雑 収 益	267,000	257,000	10,000	
計	68,600,000	67,776,000	824,000	
前期繰越収支差額	500,000	500,000	0	
収 入 合 計	69,100,000	68,276,000	824,000	

支出の部

(単位:円)

大 科 目	当 初 予 算 額	前年度当初予算額	比 較	予 算 の 説 明
一 般 管 理 費	150,000	150,000	0	
管理運営事業費	42,517,000	42,707,000	△ 190,000	
自 主 事 業 費	26,333,000	25,419,000	914,000	
予 備 費	100,000	0	100,000	
支 出 合 計	69,100,000	68,276,000	824,000	

令和7年度 公益財団法人宍粟市文化振興財団予算

(単位:円)

大科目	中科目	当初予算額	前年度予算額	比較	予算の説明
基本財産運用収入		146,000	30,000	116,000	
	基本財産受取利息	146,000	30,000	116,000	
事業収益		68,187,000	67,489,000	698,000	
	自主事業収入	14,007,000	13,309,000	698,000	和太鼓教室・篠笛教室参加者増加
	広告料収入	180,000	180,000	0	
	受託事業収入	0	0	0	
	指定管理収入	33,300,000	33,400,000	△ 100,000	
	自主事業助成金	12,000,000	11,900,000	100,000	
	会館使用料収入	8,700,000	8,700,000	0	
受取寄付金		0	0	0	
	受取寄付金	0	0	0	
雑収益		267,000	257,000	10,000	
	受取利息	7,000	7,000	0	
	雑収益	260,000	250,000	10,000	
計		68,600,000	67,776,000	824,000	

前期繰越収支差額		500,000	500,000	0	
	前期繰越収支差額	500,000	500,000	0	
収入合計		69,100,000	68,276,000	824,000	

大科目	中科目	当初予算額	前年度予算額	比較	予算の説明
一般管理費		150,000	150,000	0	
	旅費交通費	130,000	130,000	0	
	福利厚生費	15,000	15,000	0	
	会議費	5,000	5,000	0	
管理運営事業費		42,517,000	42,707,000	△ 190,000	
	給料手当	13,474,000	13,872,000	△ 398,000	雇用条件変更
	臨時雇賃金	0	0	0	
	退職給付費用	120,000	120,000	0	
	退職給付費用当期繰越額	0	0	0	
	福利厚生費	2,359,000	2,352,000	7,000	
	会議費	1,000	1,000	0	
	旅費交通費	15,000	17,000	△ 2,000	
	通信運搬費	227,000	196,000	31,000	切手・電話代値上げ
	減価償却費	0	0	0	
	消耗什器備品費	0	0	0	
	消耗品費	421,000	376,000	45,000	物価高騰
	修繕費	600,000	400,000	200,000	
	印刷製本費	41,000	41,000	0	
	燃料費	3,238,000	2,871,000	367,000	冷温水機1台運転により灯油使用料増
	光熱水料費	6,296,000	6,937,000	△ 641,000	基本単価使用料減
	賃借料	588,000	588,000	0	
	保険料(車)	33,000	33,000	0	
	保険料(その他)	108,000	102,000	6,000	
	諸謝金	0	0	0	
	租税公課費(車)	0	0	0	
	租税公課費(消費税等)	1,629,000	1,679,000	△ 50,000	
	支払手数料(車)	0	0	0	
	支払手数料(その他)	276,000	114,000	162,000	
	支払負担金	62,000	62,000	0	
	委託費(事業)	6,152,000	6,130,000	22,000	
	委託費(その他)	6,877,000	6,816,000	61,000	

自主事業費		26,333,000	25,419,000	914,000	
	給料手当	3,218,000	3,206,000	12,000	
	臨時雇賃金	3,359,000	2,534,000	825,000	会計年度職員給与規定改定
	福利厚生費	975,000	834,000	141,000	
	会議費	290,000	48,000	242,000	出演者食事負担
	旅費交通費	20,000	65,000	△ 45,000	
	通信運搬費	228,000	248,000	△ 20,000	
	消耗品費	96,000	90,000	6,000	
	印刷製本費	1,403,000	1,374,000	29,000	
	賃借料	2,550,000	2,750,000	△ 200,000	事業本数減
	諸謝金	5,621,000	4,106,000	1,515,000	和太鼓教室・篠笛教室講師謝金増額
	租税公課費	405,000	505,000	△ 100,000	
	支払手数料	127,000	127,000	0	
	委託費	8,041,000	9,532,000	△ 1,491,000	事業本数減
予備費		100,000	0	100,000	
	予備費	100,000	0	100,000	
	支出合計	69,100,000	68,276,000	824,000	

報告第11号

令和6年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率の報告について

地方公共団体の財政の健全化に関する法律（平成19年法律第94号）第3条第1項及び第22条第1項の規定により、令和6年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率について、別紙監査委員の意見を付けて報告する。

令和7年8月29日提出

宍粟市長 福元晶三

記

1. 健全化判断比率 (単位：%)

	令和6年度決算	早期健全化基準	財政再生基準
①実質赤字比率	—	12.79	20.00
②連結実質赤字比率	—	17.79	30.00
③実質公債費比率	6.6	25.0	35.0
④将来負担比率	48.9	350.0	

※①②は、実質赤字及び連結実質赤字が生じていないため「—」と記載。

2. 資金不足比率 (単位：%)

特別会計の名称	令和6年度決算	経営健全化基準
水道事業特別会計	—	20.0
下水道事業特別会計	—	20.0
病院事業特別会計	—	20.0

※資金不足が生じていないため、「—」と記載。

(写)

宍 監 第 4 7 号

令和 7 年 8 月 19 日

宍 市長 福 元 晶 三 様

宍 市 監 査 委 員 田 中 孝

宍 市 監 査 委 員 田 村 純



令和 6 年度宍 市各会計決算に伴う健全化判断比率
及び資金不足比率審査意見書の提出について

地方公共団体の財政の健全化に関する法律第 3 条第 1 項及び第 22 条第 1 項の
規定により審査に付された、令和 6 年度宍 市各会計決算に基づく健全化判断
比率及び資金不足比率について、宍 市監査基準（令和 2 年宍 市監査告示）に
基づき審査したので、別紙のとおり意見書を提出します。

令和 6 年 度

穴 栗 市 各 会 計 決 算 に 基 づ く
健 全 化 判 断 比 率 等 審 査 意 見 書

穴 栗 市 監 査 委 員

令和6年度宍粟市各会計決算に基づく 健全化判断比率等に係る審査意見書

1 審査の期間

令和7年7月15日～令和7年8月19日

2 審査の対象

令和6年度一般会計及び特別会計決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率

3 審査の方法

市長から提出された健全化判断比率、資金不足比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類が適正に作成されているかを主眼に、関係諸帳簿等との照合並びに関係職員から説明を聴取し審査した。

4 審査の結果

(1) 総合意見

審査に付された下記の健全化判断比率、資金不足比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類は、いずれも適正に作成されているものと認めた。

記

健全化判断比率

(単位：%)

区分	令和6年度	令和5年度	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	-	-	12.79	20.0
連結実質赤字比率	-	-	17.79	30.0
実質公債費比率	6.6	7.0	25.0	35.0
将来負担比率	48.9	54.8	350.0	

資金不足比率

(単位：%)

区分		令和6年度	令和5年度	経営健全化基準
法 適 用	水道事業特別会計	-	-	20.0
	下水道事業特別会計	-	-	20.0
	病院事業特別会計	-	-	20.0

※早期健全化基準、財政再生基準、経営健全化基準は令和6年度における基準である。

健全化判断比率算定表

(単位：千円)

区 分	比 率(%)	算 定 式				
実質赤字比率	-	$\frac{\text{普通会計（一般会計）の実質赤字額}}{\text{標準財政規模}} = \frac{\triangle 898,579}{14,801,103} = \triangle 6.07\%$ <p>※一般会計が実質黒字のため▲で表示している。</p>				
連結実質赤字比率	-	$\frac{(\text{イ}+\text{ロ}) - (\text{ハ}+\text{ニ})}{\text{標準財政規模}} = \frac{(0 + 0) - (1,091,575 + 2,128,944)}{14,801,103} = \triangle 21.75\%$ <p>イ＝一般会計及び公営企業（法適用・法非適用）以外の特別会計のうち実質赤字を生じた会計の実質赤字の合計額 = 0 ロ＝公営企業の特別会計のうち資金の不足額を生じた会計の資金の不足額の合計額 = 0 ハ＝一般会計及び公営企業以外の特別会計のうち実質黒字を生じた会計の実質黒字の合計額 = 1,091,575 （一般898,579 + 国保15,371 + 診療所600 + 介護157,962 + 後期高齢18,825 + 訪看238） ニ＝公営企業の特別会計のうち資金の剰余額を生じた会計の資金の剰余額の合計額 = 2,128,944 （水道366,790 + 病院1,762,154 + 下水0）</p>				
実質公債費比率	6.6	$\frac{(\text{元利償還金} + \text{準元利償還金}) - (\text{特定財源} + \text{元利償還金} \cdot \text{準元利償還金に係る基準財政需要額算入額})}{\text{標準財政規模} - \text{元利償還金} \cdot \text{準元利償還金に係る基準財政需要額算入額}}$ <p>の3カ年平均 （令和4年度：7.70899 + 令和5年度：7.10917 + 令和6年度：5.11353） / 3 = 6.6%</p>				
将来負担比率	48.9	$\frac{\text{将来負担額} - (\text{充当可能基金額} + \text{特定財源見込額} + \text{地方債現在高等に係る基準財政需要額算入額})}{\text{標準財政規模} - \text{元利償還金} \cdot \text{準元利償還金に係る基準財政需要額算入額}}$ $= \frac{42,019,288 - (7,158,224 + 397,993 + 28,798,569)}{14,801,103 - 3,236,263} = 48.9\%$				
資金不足比率	-	<table border="0"> <tr> <td>公営企業ごとの資金の不足額</td> <td>各公営企業会計の資金不足額</td> </tr> <tr> <td>公営企業ごとの事業規模</td> <td>①水道 ▲366,790 ②病院 ▲1,762,154 ③下水 0</td> </tr> </table> <p>※全ての企業会計事業について、資金不足額がないため資金不足比率を「-」で表示している。</p>	公営企業ごとの資金の不足額	各公営企業会計の資金不足額	公営企業ごとの事業規模	①水道 ▲366,790 ②病院 ▲1,762,154 ③下水 0
公営企業ごとの資金の不足額	各公営企業会計の資金不足額					
公営企業ごとの事業規模	①水道 ▲366,790 ②病院 ▲1,762,154 ③下水 0					

①実質赤字比率

普通会計（一般会計）ベースにおける実質赤字額が標準財政規模に占める割合で、令和5年度及び令和6年度ともに赤字額が生じていないことから「－」で表示しており、令和6年度における早期健全化基準の12.79%を下回っている。

②連結実質赤字比率

全ての会計（一般会計、5特別会計、3公営企業会計）を合わせた赤字額が標準財政規模に占める割合で、令和5年度及び令和6年度ともに赤字額が生じていないことから「－」で表示しており、令和6年度における早期健全化基準の17.79%を下回っている。

③実質公債費比率

一般会計の元利償還金（繰上償還額は除く）、公営企業等に係る一般会計からの繰出金及び構成市町となっている一部事務組合に係る経費負担のうち、元利償還金に充てられた額等の合計額が、標準財政規模（償還金等及び標準財政規模ともに元利償還金・準元利償還金に係る基準財政需要額算入額は除く）に占める割合で、令和6年度（3か年平均）は6.6%となっており、前年度（3か年平均）より0.4ポイント減少した。

単年度（令和6年度）では、普通交付税算入額が減少したが、繰上償還の実施により元利償還金が減少し、公営企業債の元利償還金に対する繰入金が増加したため、結果として5.114%となっており、前年度より1.995ポイント減少した。

なお、早期健全化基準25.0%は下回っており、地方債発行が県への協議制から許可制となる18.0%を11.4ポイント下回っている。

④将来負担比率

一般会計における地方債残高、企業会計等における地方債残高のうち一般会計からの繰出見込額、一部事務組合に係る負担見込額、退職手当負担見込額の合計額が、標準財政規模（将来負担額及び標準財政規模ともに交付税に算入される額等は除く）に占める割合で、令和6年度は48.9%となっており、前年度より5.9ポイント減少した。

主な要因としては、普通交付税に算入される公債費等が減少したが、計画的な繰上償還の実施による一般会計地方債残高の減少と公営企業債の元利償還金に対する繰出見込額の減少により、将来の負担額が減少したためである。

なお、令和6年度における早期健全化基準の350.0%を下回っている。

⑤資金不足比率

各公営企業の資金の不足額の事業規模に対する割合で、令和5年度及び令和6

年度ともに全ての公営企業会計で資金不足額が生じていないことから「－」で表示しているが、下水道事業においては、一般会計からの繰入金で収支が成り立っている。

なお、令和6年度における経営健全化基準の20.0%を下回っている。

(2)個別意見

①連結実質赤字比率について

全会計の実質収支、資金不足額の合計は黒字である。

予算の執行率と不用額のバランスを保ちながら、引き続き健全な財政運営に努められたい。

②実質公債費比率について

実質公債費比率（3か年平均）は前年度と比較して0.4ポイント減少し、早期健全化基準以下となっているだけでなく、地方債許可団体となる18.0%を下回っている。

これは、計画的に繰上償還を実施したことにより元利償還金が減少した結果によるもので、令和6年度においても433,826千円の繰上償還が実施されている。

しかしながら、地方交付税に大きく依存する財政基盤の弱い本市においては、更なる財政の健全化と比率の抑制を図るべく、引き続き繰上償還等により実質公債費比率の抑制に努められたい。

③将来負担比率について

将来負担比率については、前年度と比較して5.9ポイント減少している。

令和6年度末の将来負担額の総額は42,019,288千円で、その内普通会計における地方債現在高は25,182,613千円、公営企業債等に係る繰出金及び組合負担等見込額は14,141,268千円で起債償還に係るものが全体の93.6%を占めている。

分子となる将来負担額の内、充当可能な基金、公営住宅家賃の特定財源、地方債償還財源として交付税算入される額を除く一般財源負担額は、5,664,502千円で、計画的に繰上償還を実施したことにより元利償還金が減少したなどの結果、令和5年度より576,493千円の減となった。また、分母の標準財政規模から算入公債費等を除いた額については196,041千円の増となったため、結果として将来負担比率は48.9%と前年比で5.9ポイントの減となった。

今後、新病院建設の実施、また、上下水道を中心に施設の耐用年数を迎えるな

ど施設更新による経費の増加が見込まれている。更なる計画的な財政運営が必要であり、ふるさと納税制度やJ-クレジット制度による自主財源の確保とともに、将来負担の軽減に努められたい。

④資金不足比率について

各公営企業とも資金不足を生じてはいないが、病院事業特別会計については令和5年度から資金が減少傾向となっている。水道事業・下水道事業特別会計については依然厳しい状況であり、水道料金の改定が令和5年度から段階的に行われたが、下水道使用料についても適正な使用料水準の検討をはじめめる必要がある。新病院建設及び上下水道施設の将来的な更新に向けて、より一層の経営改善に努められたい。

⑤まとめ

計画的な繰上償還等の実施により、実質公債費比率については25.0%を下回っており、将来負担比率についても、同じく計画的な繰上償還等により減少傾向にある。これらの比率は、財政健全化法に示されている基準には該当せず、健全な財政運営に努めている結果であるが、あくまでも現状の財政状況の指標であって、宍粟市にとって最大の懸案事項である人口減少の要素は含まれていない。

物価高騰が依然と続くなか、自主財源に乏しく地方交付税に大きく依存する宍粟市にとっては、いままも厳しい現実に立たされている。長期的な視点に立ち、人口減少社会を見据える中で、最少の経費で最大の効果という理念に基づき、効率的な業務の運営と更なる改善に引き続き取り組む必要がある。

全国的な賃上げに伴う人件費の増加をはじめ、物価高騰による経常経費が年々、増加しているなかで、新病院建設は独立採算制を原則とする公営企業会計の事業ではあるが、地方公営企業法に基づく公営企業債等に係る一般会計からの繰出金が増加することと合わせ、将来負担比率の増加が見込まれている。本当に必要なものは何か、削減できる事業はないか日常的に検証を行い、財政の健全化、スリム化に努められたい。

報告第12号

市議会の権限に属する事項中市長の専決処分事項の報告について

地方自治法（昭和22年法律第67号）第180条第1項の規定により定めた市長において専決処分をすることができる事項について、次のとおり専決処分したので、同条第2項の規定により報告する。

令和7年8月29日提出

宍粟市長 福元晶三

事件概要	相手方	損害賠償額	専決年月日
令和7年6月25日午後3時頃、宍粟市山崎町加生51番地1地先（市道加生8号線と里道との境界）において、市の道路の管理瑕疵により、相手方所有の財物を破損させたもの	宍粟市 個人	14,210円	令和7年 8月4日
インターネット回線使用料の支払事務において、宍粟市職員が過失により支払処理を遅延したもの	東京都港区港南一丁目2番70号 品川シーズンテラス NTTファイナンス株式会社	7円	令和7年 8月20日